

### 3. 学士課程及び大学院修士課程の教育内容・方法等

#### <学士課程の教育内容>

##### (1) 教育課程

###### 「現状及び点検・評価」

- ① 学士課程における教育課程については、本学の建学精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」、「寛容と暖かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」に則り医療保健の分野において特色ある教育研究を実践することで、時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して、新しい視点から総合的に探求し解決することができる人材を育成するという目的・教育目標を達成する観点から編成している。
- ② 教育課程は、全学科共通の授業科目及び各学科の専門的な授業科目を体系的かつ効果的に編成しており、臨床への理解に富む人材の育成を実践的に行うように特に病院との連携を活かした臨地実習を重視している。
- ③ また、各学科の専任教員によるアドバイザー制度を設け学生からの履修相談等に応じて適切な指導助言を行うとともに、各セメスターごとに学生の保護者に成績を送付することにより学生への修学指導等を効果的に行っており、全学生に1人1台のパソコンを貸与し、情報教育の浸透を図るとともに、4年間の学習活動に活用させている。
- ④ 学部における教育の運営は、全学共通の教育については教務部及び教務委員会が、各学科の専門科目については各学科の教授会が行っている。本学は、今年度で完成年度を迎えたが、この間の教育課程については原則変更を行っていないところであり、授業を進めていく中で改善を要する事項等が生じた場合は、教務委員会に諮り学科長会議、大学経営会議の議を経て改善を図っている。また、教育改善への組織的な取り組みに関しては、学長を委員長とするFD委員会が中心となり、平成18年度から毎年度学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を学内において公表するとともに、教育の質の向上に役立っている。

##### (共通科目)

本学では、全学科共通の科目として、「いのち・人間の教育分野」、「医療のコラボレーション分野」の科目を開講している。その、教育的な狙い及び特色は次のとおりである。

○全学共通科目を、「いのち」とは何かを考え、社会・自然・文化を学ぶ「いのち・人間の教育分野」と3学科共通の医療の概念や理論及び基礎知識を理解する「医療のコラボレーション分野」に大別している。

(表2 共通科目一覧)

○感性を育てるものとして、「心理学」、「哲学と宗教」、「コミュニケーション概論」を必修科目として配置し、特に、臨地実習や卒業後医療保健の現場で患者等との接触の際に役立つ科目となっている。

- 情報化の対応として「情報リテラシー」、「データサイエンス」を全学科の必修科目とした。本学は、パソコンを貸与し、全学生が1年前期終了までには一定レベルまでパソコンを操作できるようになることから、学内の情報伝達や学生個人の学習に成果をあげている。
- 国際化の対応としては「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」、「英語講読・記述」を必修とし、各クラスの受講人数を25人～30人としている。「英会話Ⅲ」においては、プレメントテストを実施し能力別クラス編成を行っている。また、「専門英語」は、各学科の専門的な知識を得るためのアカデミックリーディングとライティングの手法とその能力の向上と臨床場面における英会話能力向上の2面を配慮した授業内容としている。更に、授業以外でも、本学主催の海外研修への参加奨励、TOEIC及び実用英語技能検定などの受験を積極的に勧めている。
- 「いのち・人間の教育分野」を、『いのち・人間』、『社会科学』、『自然科学』、『外国語』、『情報科学』に区分し、主として1・2年次までの選択科目として26科目を編成している。
- 「医療のコラボレーション分野」では、人体の構造や機能、健康等について理解するとともに各学科のコラボレーションを図ることを目的に科目を編成している。具体的には、『入門』として「体の仕組みと働きⅠ・Ⅱ」等5科目、『発展』として「医学・医療概論」等3科目、『実践』として「協働実践演習」等3科目を必修科目として編成している。
- 共通科目の1～3年次までの全学科必修科目における成績の状況は、年度別の成績評価に大きな差異がなく、学科別には若干の差異が見受けられるが、これは、入学時における基礎学力の差によるものと考えられる。また選択科目において、年度別及び学科別に選択率に差異があるが、この主たる理由として各年度の時間割の編成によるものと考えられる。

(表3 共通科目の全学科必修科目の年度別成績評価)

(表4 共通科目の選択科目年度別・分野別の履修率)

#### 「今後の改善・改革に向けた方策」

「いのち・人間の教育分野」においては、特に一般教養の科目において履修者数が少ない科目があることから、学生にとってより魅力のある科目内容に改善するとともに、新たな視点から新規の科目を追加するなど、教務委員会のもとに共通科目専門委員会を設置し検討を行っている。なお、英語教育においては、公的な英語検定試験において、一定水準以上の成績を収めた学生に対して、英語科目の単位認定の検討を行う必要がある。

表2 共通科目一覧  
○いのち・人間の教育

分類	科目名	単位数	1単位 当 時間数	開講学年				全学科 必修	担当 教員		備 考
				1 年	2 年	3 年	4 年		専 任	兼 任	
いのち・人間	心理学	2	15	○				○		○	
	哲学と宗教	2	15			○		○	○		
	文学	1	15		○				○		
	生命倫理学	1	15	○					○		
	医療と人間	2	15	○						○	
社会科学	コミュニケーション概論	2	15	○				○		○	
	経済学	2	15	○					○		
	社会学	2	15	○						○	
	法学	2	15	○						○	
	歴史	2	15	○					○		
	国際関係論	1	15		○				○		
	認知科学	1	15	○						○	
	人間関係論	1	15		○					○	
	家族社会学	1	15		○					○	
	ジェンダー論	1	15		○					○	
	比較文化論	1	15		○					○	
自然科学	生物Ⅰ	1	15	○					○		
	生物Ⅱ	1	15	○						○	栄養学科のみ必修科目
	データサイエンス	2	15	○				○	○		
	基礎数学	1	15	○						○	
	物理学	1	15	○						○	
	化学Ⅰ	1	15	○						○	
	化学Ⅱ	1	15	○						○	栄養学科のみ必修科目
	スポーツ科学	1	15	○	○	○			○		
	スポーツ実習	1	30	○	○	○			○		
外国語	英語購読・記述	2	15	○				○	○	○	
	英会話Ⅰ	2	15	○				○	○	○	
	英会話Ⅱ	2	15	○				○	○	○	
	英会話Ⅲ	2	15		○				○	○	
	専門英語	2	15			○				○	
	フランス語	2	15	○						○	
	中国語	2	15	○						○	
情報科学	情報リテラシー	2	15	○				○	○	○	
	情報科学	2	15	○					○	○	情報学科のみ必修科目

○医療のコラボレーション教育

分類	科目名	単位数	1単位 当 時間数	開講学年				全学科 必修	担当 教員		備考
				1年	2年	3年	4年		専任	兼任	
入門	体の仕組みと働きⅠ	2	15	○				○	○		
	体の仕組みと働きⅡ	2	15	○				○	○		
	公衆衛生学	2	15		○			○	○		
	栄養学総論	2	15	○				○	○		
	医療安全管理学	2	15		○			○	○		
発展	医学・医療概論	1	15	○				○	○		
	臨床薬理学	2	15	○				○	○		
	医療マネジメント論	1	15		○			○	○		
	協働実践演習	1	30				○	○	○		
実践	ボランティア論	1	15	○				○	○		
	ボランティア活動	1	30	○					○	平成17年度のみ必修科目	

表3 共通科目の全学科必修科目の年度別成績評価

※評価数値（点）：素点の平均（小数点以下は四捨五入）

いのち・人間の教育	平成17年度（点） （※7科目）	平成18年度（点） （※7科目）	平成19年度（点） （※8科目）
		78	81

※平成17・18年度の科目数は1年次の必修科目総数、H19年度の科目数は1・3年次の必修科目総数である。

医療のコラボレーション教育	平成17年度（点） （※7科目）	平成18年度（点） （※10科目）	平成19年度（点） （※10科目）
		80	77

※平成17年度の科目数は1年次の必修科目総数、H18・19年度の科目数は1・2年次の必修科目総数である。

表4 共通科目の選択科目年度別・分野別の履修率

	平成17年度（%） （※18科目）				平成18年度（%） （※25科目）				平成19年度（%） （※26科目）			
	看護学科	医療栄養学科	医療情報学科	計	看護学科	医療栄養学科	医療情報学科	計	看護学科	医療栄養学科	医療情報学科	計
いのち・人間（3科目）	67	68	88	74	46	46	44	46	19	33	49	34
社会科学（10科目）	12	34	64	25	19	30	43	31	19	30	45	31
自然科学（8科目）	17	67	26	36	14	72	33	38	12	71	38	40
外国語（4科目）	5	30	41	18	14	20	23	19	21	21	48	30
情報科学（1科目）	9	23	100	44	1	45	100	49	12	100	100	71

※平成17年度の科目数は1年次の選択科目総数、平成18年度の科目数は1・2年次の選択科目総数、平成19年度の科目数は1・2・3年次の選択科目総数である。

## (看護学科)

### 「現状及び点検・評価」

- ① 看護学科の教育目的・目標は豊かな教養を身につけ、人間理解、生命への畏敬、看護の専門職業人としての自立を促し、人のライフサイクルを対象とした健康に関する生活の質を高める看護をめざし、多種職者とタイアップし総合的な知識と実践力を養い「現場に立脚した、臨床に強い看護師・保健師」を育成することであり、本学科の教育課程は、本学の教育理念、本学科教育目標・目的に基づき、「いのち・人間の教育」、「医療のコラボレーション教育」及び「専門職の教育」の3教育分野により構成している。
- ② カリキュラムの特徴は学科共通科目のほかに、専門職教育分野として『専門基礎』、『実践基礎』、『実践応用』、『卒業研究』及び『実践の展開』の5つに区分しており、学習を統合できるように科目を配置し、4年間を通じて修得する。また、臨床に強い必要な専門的能力を身につけるためには看護・医学基礎知識・技術を基盤とし、高度な専門的知識の理解と探究を自主的に学習できるように段階的に整理するとともに、患者の生命を守る医療従事者として安全・安心な医療・看護を実践する能力を養成することとしている。

#### (表5 看護学科カリキュラム (学年進度))

- 『専門基礎』、『実践基礎』及び『実践応用』は1年次から3年次にかけて、『卒業研究』及び『実践の展開』は3年次から4年次にかけて配置している。
  - ・『専門基礎』は『実践基礎』及び『実践応用』を学ぶ基礎となる重要な科目であり、看護を専門的に発展・展開させていくための基本的な知識科目としての役割を有している。
  - ・『実践基礎』は対象のニーズを的確に判断し、ケアを適切に実践するための成長・成熟を目指す科目を配置している。
  - ・『実践応用』は、質の高い実践能力を養うために特定の健康問題に対応するための科目を配置している。
  - ・臨地実習は医療施設(病院)、地域の保健医療の場、産業保健及び学校保健の場で実施し、学内で学んだ理論の学習と臨地(現場)での実践の統合を図っている。
- これらを踏まえて、専門性を深める学習・研究と発展し『卒業研究』として学修することとしている。
  - ・3年次では研究に取り組んでいくための一連のプロセスを授業で学び、4年次に学生個人が興味・関心のある領域で研究課題に取り組みながら、研究方法を広く組織立てて展開できるよう配置している。
  - ・この科目を通して、看護知識の蓄積に寄与しうる専門職者となることを理解できるよう取り組んでいる。
  - ・また、臨地実習や研究の対象者に対する倫理的配慮については、「個人情報保護に関する誓約書」に基づき個人情報に配慮するとともに研究倫理審査を通じて研究に取り組むことの重要性についても実践から学ぶこととしている。
- これらのプロセスを経て、看護の専門職に就くことへの意義や自分自身の課題と真剣に向き合い、試行錯誤する中で看護職としての能力・適性を身につけ、責任感、倫理観を養うこととしている。

- ③ 科目履修に当たっては必修科目・選択科目を設け、選択科目は各教育分野に配置している。
- 「いのち・人間の教育」の分野は5区分で単位取得は必修科目16単位、選択科目4単位以上、卒業必要単位数は20単位以上である。この教育分野は生命の畏敬の念から人に対する思いやりや理解・価値（生きる）の大切さを心で感じられる豊かな人間として養われる要素を取り入れており、選択科目が多く設定されていることから学生が自由に主体的に学べるよう配慮している。
  - 「医療のコラボレーション教育」分野は「入門」、「発展」及び「実践」の3区分であり、「入門」、「発展」の科目は看護を学ぶ基礎知識として必要な医学・薬学知識を主としており、医療管理、他学科との協働実践演習、ボランティア論に関する必修科目を配置している。選択科目は「実践」のボランティア活動（1年次前期）としている。
  - 「専門職の教育」分野の5区分は看護師の資格を得るための必要不可欠な必修科目であり、88単位を修得し、選択科目は『実践展開』の9科目（3年次・4年次後期）とボランティア活動から2単位以上修得することになっている。
  - 「医療のコラボレーション教育」及び「専門職の教育」で卒業要件に必要な単位数は106単位である。4年間の卒業必要単位数は必修総単位数120単位、選択科目6単位以上、126単位以上を卒業要件単位としているが、看護師、保健師養成という本学科の性質から妥当であると判断される。

表6 看護学科履修単位数

教育分野	必修	選択	卒業必要単位数
いのち・人間の教育	16単位	4単位以上	20単位以上
医療のコラボレーション教育	16単位	2単位以上	106単位以上
専門職の教育	88単位		
合計	120単位	6単位以上	126単位以上

- ④ 臨地実習は3年次に配置されており、単位数は1週45時間で1単位としている。
- 看護専門各領域（小児2単位、母性2単位、臨床8単位、精神2単位、老年2単位で計14単位）を通年で習得する。
  - 臨地実習科目を履修するには、当該科目の履修条件科目の単位取得を必要条件としている。現場での看護実践であるため、患者（対象）の生命の安全に係わることから2年次までの看護学各領域専門看護科目の単位取得を条件としていることは重要である。
  - 地域看護学実習は4年次の前期に開講され、4単位である。実習必要条件は同様である。本大学が単位制であるため、再履修者生は科目配当年次以外で科目を履修することは容易でなく、詳細な調整をしないと授業を受講する時間の調整に困難が生じ、4年間の正規修業年限で終了することは簡単ではないが、現在は当該科目担当教員と交渉しながら必要時間数出席できるよう調整を行い、支障なく実施している。
- (表7 看護学科 実習科目履修条件)  
(表8 看護学科 専門科目一覧(専門職の教育))

- ⑤ 本学科は授業の効果を考えて、クラス編成（2クラス）をとっているが、時間割の配置によって出席状況がクラスによって偏りが出てきている。科目によっては授業内容の習得においても学生から一斉授業形態を要望する意見もある。

「今後の改善・改革に向けた方策」

看護学科の教育課程において、臨地実習が重要であり、通年構成されていることから Semester 制にそぐわないのではないかと、また、実習を 4 年次ではなく、3 年次以前としてはどうかなどカリキュラム体系の見直しが今後の課題である。

表5 看護学科カリキュラム (学年進度)

時期 分野	1年生		2年生		3年生		4年生		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
いのち・人間の教育	人間	心理学				哲学と宗教			
		生命倫理学	医療と人間		文学				
	社会科学	経済学	コミュニケーション概論						
		社会学		家族社会学	国際関係論				
		歴史(医療史)		人間関係論	比較文化論				
		法学		ジェンダー論					
	自然科学	データイクエンス							
		生物 I / II							
			物理学						
		化学 I / II							
		基礎数学							
		スポーツ科学(夏期集中)							
		スポーツ実践(夏期集中)							
	外国語	英会話 I	英会話 II	英会話 III			専門英語		
			英語購読・記述						
		フランス語							
	情報科学	情報リテラシー	情報科学						
	医療の コラボレーション教育	入門	体の仕組みと働き I	体の仕組みと働き II	公衆衛生学				
			栄養学総論	医療安全管理学					
発展		医学・医療概論	臨床薬理学	医療マネジメント論					
実践	ボランティア論						協働実践演習		
専門職の教育	専門基礎		病原微生物学	疾病治療論 I					
			病態生理学	疾病治療論 II					
			治療学総論	疾病治療論 III					
		生活健康科学		社会福祉論					
	実践基礎	看護理論概論	基礎看護技術 I	基礎看護技術 III					
		看護対象論概論	基礎看護技術 II						
			基礎看護学実習 I		基礎看護学実習 II				
				家族看護論					
	地域看護学概論	地域看護活動論 II	地域看護活動論 III						
	地域看護活動論 I		保健医療福祉行政学			地域看護学実習			
			疫学・保健統計論						

時期 分野	1年生		2年生		3年生		4年生		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専 門 職 の 教 育	実 践 基 礎			精神機能論	精神看護 援助論	精神看護学実習			
				精神保健論					
		機能看護学Ⅰ		機能看護学Ⅱ	看護情報学 看護情報学 演習		機能看護学Ⅲ		機能看護学Ⅳ
							看護研究 概論		
							看護研究 方法		
	実 践 応 用		小児看護 対象論	小児看護 援助論Ⅰ	小児看護 援助論Ⅱ	小児看護学実習			
			母性看護 対象論	母性看護 援助論Ⅰ	母性看護 援助論Ⅱ	母性看護学実習			
			成人看護 対象論		臨床看護 援助論Ⅰ	臨床看護学実習Ⅰ			
					臨床看護 援助論Ⅱ	臨床看護学実習Ⅱ			
					臨床看護 援助論Ⅲ	臨床看護学実習Ⅲ			
					臨床看護 援助論Ⅳ	臨床看護学実習Ⅳ			
					臨床看護 援助論Ⅴ				
			老年看護 対象論	老年看護 援助論Ⅰ	老年看護 援助論Ⅱ	老年看護学実習			
	研 卒 究 業						卒業研究		
	実 践 展 開						リハビリ テーション 論		国際看護論
							医用機器概論		専門看護特論 ：がん
									専門看護特論 ：感染管理
									専門看護特論 ：WOC
									専門看護特論 ：リエゾン
									専門看護特論 ：ICU・CCU
									代替医療論

表7 看護学科 実習科目履修条件

実習科目名	開講年次	履修条件科目
基礎看護学実習Ⅰ	1年	看護対象論概論
基礎看護学実習Ⅱ	2年	看護理論概論
		基礎看護技術Ⅰ
		基礎看護技術Ⅱ
		基礎看護技術Ⅲ
		基礎看護学実習Ⅰ
精神看護学実習	3年	精神機能論
		精神保健論
		精神看護援助論
臨床看護学実習Ⅰ	3年	成人看護対象論
		臨床看護援助論Ⅰ
		臨床看護援助論Ⅱ
		臨床看護援助論Ⅲ
		臨床看護援助論Ⅳ
		臨床看護援助論Ⅴ
臨床看護学実習Ⅱ	3年	成人看護対象論
		臨床看護援助論Ⅰ
		臨床看護援助論Ⅱ
		臨床看護援助論Ⅲ
		臨床看護援助論Ⅳ
		臨床看護援助論Ⅴ
臨床看護学実習Ⅲ	3年	成人看護対象論
		臨床看護援助論Ⅰ
		臨床看護援助論Ⅱ
		臨床看護援助論Ⅲ
		臨床看護援助論Ⅳ
		臨床看護援助論Ⅴ
臨床看護学実習Ⅳ	3年	成人看護対象論
		臨床看護援助論Ⅰ
		臨床看護援助論Ⅱ
		臨床看護援助論Ⅲ
		臨床看護援助論Ⅳ
		臨床看護援助論Ⅴ
小児看護学実習	3年	小児看護援助論Ⅰ
		小児看護援助論Ⅱ
母性看護学実習	3年	母性看護対象論
		母性看護援助論Ⅰ
		母性看護援助論Ⅱ
老年看護学実習	3年	老年看護対象論
		老年看護援助論Ⅰ
		老年看護援助論Ⅱ
地域看護学実習	4年	地域看護学概論
		地域看護活動論Ⅰ
		地域看護活動論Ⅱ
		地域看護活動論Ⅲ

表 8 看護学科 専門科目一覧（専門職の教育）

分類	科目名	単位数	1 単位当 時間数	配当年次				科目		担当教員	
				1 年	2 年	3 年	4 年	必修	選択	専任	兼任
専門 基礎	病原微生物学	2	15	○				○			○
	病態生理学	2	15	○				○			○
	治療学総論	1	15	○				○			○
	疾病治療論Ⅰ	2	15		○			○		○	
	疾病治療論Ⅱ	2	15		○			○		○	
	疾病治療論Ⅲ	2	15		○			○		○	
	生活健康科学	2	15	○				○			○
	社会福祉論	2	15		○			○			○
実践 基礎	看護理論概論	2	15	○				○		○	
	看護対象論概論	2	15	○				○		○	
	基礎看護技術Ⅰ	1	30	○				○		○	
	基礎看護技術Ⅱ	1	30	○				○		○	
	基礎看護技術Ⅲ	1	30		○			○		○	
	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	○				○		○	
	基礎看護学実習Ⅱ	2	45		○			○		○	
	看護研究概論	1	15			○		○		○	
	看護研究方法	1	30			○		○		○	
	家族看護論	1	15		○			○		○	
	地域看護学概論	2	15	○				○		○	
	地域看護活動論Ⅰ	2	15	○				○		○	
	地域看護活動論Ⅱ	2	15		○			○		○	
	地域看護活動論Ⅲ	2	15		○			○		○	
	保健医療福祉行政学	2	15		○			○			○
	疫学・保健統計論	2	15		○			○		○	
	地域看護学実習	4	30				○	○		○	
	精神機能論	1	30		○			○		○	
	精神保健論	1	30		○			○		○	
	精神看護援助論	1	30		○			○		○	
	精神看護学実習	2	45			○		○		○	
	機能看護学Ⅰ	1	30	○				○		○	
	機能看護学Ⅱ	1	30		○			○		○	
機能看護学Ⅲ	1	30			○		○		○		
機能看護学Ⅳ	1	30				○	○		○		
看護情報学	1	30		○			○		○		
病原微生物学	2	15	○				○			○	
看護情報学演習	1	30		○			○		○		

分類	科目名	単位数	1 単位当 時間数	配当年次				科目		担当教員	
				1 年	2 年	3 年	4 年	必修	選択	専任	兼任
実践 応用 学	小児看護対象論	1	15	○				○		○	
	小児看護援助論Ⅰ	1	30		○			○		○	
	小児看護援助論Ⅱ	1	30		○			○		○	
	小児看護学実習	2	45			○		○		○	
	母性看護対象論	1	15	○				○		○	
	母性看護援助論Ⅰ	1	30		○			○		○	
	母性看護援助論Ⅱ	1	30		○			○		○	
	母性看護学実習	2	45			○		○		○	
	成人看護対象論	1	15	○				○		○	
	臨床看護援助論Ⅰ	1	30		○			○		○	
	臨床看護援助論Ⅱ	1	30		○			○		○	
	臨床看護援助論Ⅲ	1	30		○			○		○	
	臨床看護援助論Ⅳ	1	30		○			○		○	
	臨床看護援助論Ⅴ	1	30		○			○		○	
	臨床看護学実習Ⅰ	2	45			○		○		○	
	臨床看護学実習Ⅱ	3	45			○		○		○	
	臨床看護学実習Ⅲ	1	45			○		○		○	
	臨床看護学実習Ⅳ	2	45			○		○		○	
	老年看護対象論	1	15	○				○		○	
	老年看護援助論Ⅰ	1	30		○			○		○	
老年看護援助論Ⅱ	1	30		○			○		○		
老年看護学実習	2	45			○		○		○		
実践 展 開	リラクゼーション論	1	15			○			○		○
	医用機器概論	1	15			○			○		○
	国際看護論	1	15				○		○	○	
	専門看護特論：がん	1	15				○		○	○	
	専門看護特論：感染管理	1	15				○		○	○	
	専門看護特論：WOC	1	15				○		○	○	
	専門看護特論：リエゾン看護	1	15				○		○	○	
	専門看護特論：ICU・CCU	1	15				○		○	○	
代替医療論	1	15				○		○	○		
卒業研究	4	30				○	○		○		

## (医療栄養学科)

### 「現状及び点検・評価」

- ① 医療栄養学科は栄養士・管理栄養士を養成する学科であり、栄養士法及び同法施行規則に定める管理栄養士養成課程の規定単位を修得し、更に本学で定める卒業要件を満たして卒業した者には、栄養士免許証が与えられるとともに、管理栄養士国家試験の受験資格が認められる。
- ② 開設授業科目数は、「いのち・人間の教育分野」69 単位、「医療のコラボレーション教育分野」17 単位及び「専門科目」100 単位で、全開講単位数に対する専門科目の割合は 59.2%である。
  - 4 年次後期には、栄養学や本学での連携を意図した科目を編成し、より専門性の高い領域への関心をもって主体的に取り組めるように選択科目を多く編成している。なお、「いのち・人間の教育」分野の科目は、1 年次から 4 年次まで開講している。
  - 卒業要件単位数は、本学必修科目 108 単位、医療栄養学科必修科目 2 単位、選択科目 16 単位以上（7 単位以上は専門科目の選択科目から選ぶ）の合計 126 単位以上である。  
（表 9 医療栄養学科 専門科目一覧（専門職の教育））
  - 専門科目は、平成 14 年度施行改正栄養士法に則って専門基礎分野と専門分野とに区別されている。
    - ・専門基礎分野 3 領域は、「社会・環境と健康」、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」及び「食べ物と健康」であり、専門分野 6 領域は、「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」及び「給食経営管理論」である。この 9 領域は国家試験出題領域区分でもあり、この 9 領域のほかに、「総合演習Ⅰ・Ⅱ」及び「臨地実習Ⅰ・Ⅱ」を配置している。
  - 専門科目の選択科目には、臨床の知識を深める「臨床栄養学実習Ⅲ、臨床検査学、薬物療法学、病態生化学、カウンセリング論」、食品の知識を深める「食品安全学、食品機能学、調理化学実験、食品流通論、フードスペシャリスト論、フードコーディネーター論」、栄養と調理の理解を深める「献立作成演習、応用栄養学実験Ⅱ」、その他にも食文化論、食育論、卒業研究を配置しており、いずれも本学科の特色を有している科目である。
- ③ 本学科では、設立の趣旨である「チーム医療」の一員として、臨床の現場に対応できる、臨床に強い管理栄養士の育成を目指している。このため、栄養士免許・管理栄養士国家試験受験資格のほかに、食品衛生管理者及び食品衛生監視員（いずれも任用資格）、フードスペシャリスト（認定資格）、栄養教諭免許 1 種が取得できるよう所要の科目を配置している。
  - 授業においては、講義・演習・実習・実験を行い、学生の理解度を高める配慮をしているが、特に医療系の大学として、病院との連携を活かした臨地実習を重視し、臨床への理解に富む人材の育成を実践教育で行う。医療関連講座には、臨床経験と教育経験の豊かな教員を配している。
    - ・学生 1 人に 1 台パソコンを貸与しているが、情報教育の浸透を図るとともに、情報関連講座を積極的に活用し、企業等での実務もこなせる人材を育成する。
    - ・学生の主体的な自己学習や体験的学習のための時間を確保できるよう考慮するとともに、基礎学力の向上を図ることを特に配慮している。

- ・実践を重視する観点から早期に実習を積極的に取り入れ、講義・演習・実習が有機的なサイクルで学習が進むよう編成し実践学習を深めるとともに、専門だけに偏らずに広く教養を身に付けられるように配慮している。
  - ・そのため、1年次、2年次での必修履修単位を多くし、3年次前期は校内実習の仕上げの時期と位置づけ、校内実習を積極的に取り入れており、3年次後期から4年次前期には主に臨地実習を配置し、実習に専念できるようにしている。
- 「臨地実習」については管理栄養士の実践教育の科目として、実践能力を身に付けるための重要な実習である。

(表 10 医療栄養学科臨地実習施設)

- ・本学では、「臨地実習Ⅰ」では、主に「給食の運営」に関する実習と「給食経営管理理論」、「公衆栄養学」に関する組み合わせで行い、「臨地実習Ⅱ」では、主に「臨床栄養学」に関する実習を行うこととしている。
- ・臨地実習では、病院、学校、老人ホーム等、事業所、保健所等での実習のほか、連携病院である NTT 東日本関東病院をはじめ、病院での実習を多く取り入れている。
- ・実習スケジュールについては、実習希望施設の調査、施設との交渉、実習施設調整、実習施設決定・依頼・実習内容調整、実習施設先挨拶、事前指導（事前ガイダンス等）、実習巡回指導、実習施設先、実習結果の聞き取り・挨拶及び実習報告会である。
- ・実習中の対応については、教員による実習施設先の巡回指導、実習上の問題点の聞き取り、実習中の課題に対する対応及び施設における反省会・報告会への出席であるが、実習先巡回指導、実習施設担当専任教職員の授業と実習施設先との時間調整が難しい。また、実習施設先の反省会も実習施設の期間が重なるため専任教職員の出席が難しい状況である。

表 10 医療栄養学科臨地実習施設

科目	臨地実習区分	実施日	時間	依頼施設数	人員(名)
臨地実習Ⅰ (3年次)	学校	(平成19年9/24~10/27)	45	3施設	10
	事業所	(平成19年8/20~9/15)	45	7施設	35
	社会福祉施設	(平成19年8/20~9/15)	45	10施設	33
	保健所	(平成19年9/24~10/27)	45	5施設	26
	病院1	(平成19年8月~平成20年3/29)	90	20施設	104
臨地実習Ⅱ (4年次)	病院2				
	NTT 東日本関東病院 東京通信病院	(平成20年5/12~11/21) (6/6~7/8)	45 45	19班 6班	92 12

注 学校・事業所・社会福祉施設・保健所のいずれか1施設

注 病院1は全学生1施設、病院2はいずれか1施設

- ④ 栄養教諭課程は、今日における「食」の重要性の認識を背景に平成17年4月に創設された栄養教諭制度の趣旨に鑑み、栄養教諭の職務の基礎となる食・栄養・健康等に関する専門性の上に、教育に関する専門知識、実践的資質、深い識見を備え、更には「食」を取り巻く広範な諸問題への社会的視点をも身につけた教員の養成を目指している。

○栄養教諭課程の授業は平成18年度から開始し、法令の規定するカリキュラムを2年次生から履修させており、現在順調に推移している。平成18年度当初の受講者は、60名余りであったが、現在は25名である。これは、成績不振者や意欲・適性に問題のある者が淘汰された結果であり、「今後の教員養成・免許制度の在り方について」の中教

審答申の趣旨にも沿ったものと考えている。

- 教職科目の多くは、現在、専任教員の授業を除き、夏季休暇中やその他の時期に集中講義として実施されており、学生にとっては履修上必ずしも好都合ではないと考えられる。また、多くの科目の授業を学外の非常勤講師に依存している現状にある。ただし、非常勤講師には、当該分野において我が国屈指の研究者も含まれており、学生にとって得難い機会を提供している。
- 栄養教育実習も順調に進行中である。「栄養教育実習受講資格」を定め、真に意欲と力量のある学生を実習に送り出すよう努めている。東京都教育委員会への申請を通じて実習校の確保に努めているが、一部は学生の母校での実習となっている。教育実習は学生に大きな影響を与え、教職への関心と意欲を高めていると認められる。現在、学校での実習は法令に従い1週間1単位を履修させているが、実習校及び実習生の双方から短すぎるとの意見が多く寄せられている。

#### 「今後の改善・改革に向けた方策」

- ① 管理栄養士課程を卒業する学生の初めての国家試験受験が平成21年3月であるため、今後、国家試験結果等を踏まえてカリキュラム内容の検討を行うこととする。
- ② 実習先施設、特に病院においては、病院管理栄養士を目指している学生の受入を求められているため、学生に対しては、臨床栄養学実習の意義について、周知徹底を図る必要がある。
- ③ 臨地実習後の施設先の評価については、臨地実習の出欠表に基づき、評価表「実習態度や取り組み状況など」で判定するが、施設間の評価基準に差が見られることから実習指導者の評価基準を明確にする必要がある。
- ④ 栄養教諭課程については非常勤講師と集中講義への依存の逡減等が課題であり、担当スタッフの充実を図ると共に、今後、教育実習の進め方をはじめカリキュラムの改善を進める必要がある。

表9 医療栄養学科 専門科目一覧（専門職の教育）

分類	科目名	単位数	1単位当 時間数	配当年次				科目		担当教員	
				1年	2年	3年	4年	必修	選択	専任	兼任
専門基礎	健康管理概論	2	15	○				○		○	
	社会福祉総論	2	15	○				○			○
	食育論	1	15		○				○	○	
	食文化論	1	15	○					○		○
	運動生理学	1	15			○		○		○	
	病理学	2	15		○			○		○	
	生化学Ⅰ	2	15		○			○		○	
	生化学Ⅱ	2	15		○			○		○	
	微生物学	2	15		○			○		○	○
	解剖生理学特論	2	15			○		○			○
	解剖生理学実験Ⅰ	1	45	○				○		○	○
	解剖生理学実験Ⅱ	1	45		○			○		○	○
	生化学実験	1	45		○			○		○	
	微生物学実験	1	45		○			○		○	○
	薬物療法学	1	15					○		○	○
	病態生化学	1	15					○		○	
	臨床検査学	2	15					○		○	○
	食品学Ⅰ	2	15	○				○		○	
	食品学Ⅱ	2	15		○			○		○	○
	食品衛生学	2	15		○			○		○	
	食安全学	2	15					○		○	
	調理学	2	15	○				○		○	
	食品学実験Ⅰ	1	45	○				○		○	
	食品学実験Ⅱ	1	45		○			○		○	
	食品加工学実習	1	45			○		○		○	○
	食品衛生学実験	1	45		○			○		○	
	調理学実習Ⅰ	1	45	○				○		○	
	調理学実習Ⅱ	1	45	○				○		○	○
	食品機能学	1	15			○				○	○
	調理科学実験	1	45		○					○	○
食品流通論	2	15			○				○	○	
フードスペシャリスト論	2	15			○				○	○	
フードコーディネーター論	2	15			○				○	○	
基礎栄養学	基礎栄養学特論	1	15		○			○		○	
	栄養生理学実験	1	45			○		○			○
応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2	15		○			○		○	
	応用栄養学Ⅱ	2	15		○			○		○	
	分子栄養学	2	15			○		○			○
	応用栄養学実習Ⅰ	1	45		○			○		○	
	応用栄養学実習Ⅱ	1	45			○			○	○	

分類	科目名	単位数	1 単位当 時間数	配当年次				科目		担当教員	
				1 年	2 年	3 年	4 年	必修	選択	専任	兼任
栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2	15		○			○			○
	栄養教育論Ⅱ	2	15		○			○		○	
	栄養教育論Ⅲ	2	15			○		○		○	
	栄養教育論実習Ⅰ	1	45		○			○		○	
	栄養教育論実習Ⅱ	1	45			○		○		○	
	カウンセリング論	1	15				○		○		○
臨床栄養学	医療栄養学概論Ⅰ	2	15		○			○		○	
	医療栄養学概論Ⅱ	2	15		○			○			○
	臨床栄養学Ⅰ	2	15			○		○		○	
	臨床栄養学Ⅱ	2	15			○		○		○	
	臨床栄養学実習Ⅰ	1	45			○		○		○	
	臨床栄養学実習Ⅱ	1	45			○		○		○	
公衆栄養学	臨床栄養学実習Ⅲ	1	45				○		○	○	
	公衆栄養学Ⅰ	2	15			○		○		○	
	公衆栄養学Ⅱ	2	15				○	○		○	
	健康管理概論	2	15	○				○		○	
給食経営管理論	公衆栄養学実習	1	45			○		○		○	
	給食経営管理論Ⅰ	2	15		○			○		○	○
	給食経営管理論Ⅱ	2	15		○			○		○	○
	給食経営管理論実習	1	45		○			○		○	
総合 演習	献立作成演習	1	30		○				○	○	
	総合演習Ⅰ	1	30				○	○		○	
実習 臨地	総合演習Ⅱ	1	30				○	○		○	
	臨地実習Ⅰ	2	45			○		○		○	
	臨地実習Ⅱ	2	45				○	○		○	
	卒業研究	4	30				○		○	○	

(医療情報学科)

「現状及び点検・評価」

医療情報学科では、医療の専門科目として「保健医療基礎」、「臨床医学基礎」、「医療管理学」の科目、情報の専門科目として「情報基礎」、「情報応用」、「関連情報科学」の科目、更に医療と情報に直接関連する専門科目として「応用研究」を開講している。その、教育的な狙いや特色は次のとおりである。

(表 11 医療情報学科 専門科目一覧 (専門職の教育))

- ① 「保健医療基礎」においては、医療を取り巻く保健・福祉の制度等を理解するために「社会福祉総論」、「健康管理概論」を配置し、更に医療機関における他の専門職の知識を学ぶために「臨床検査総論」、「看護概論」を配置し、保健・医療・福祉に関わる幅広い知識を取得させ、就職活動における職業観の育成に貢献している。
- ② 「臨床医学基礎」においては、「臨床医学総論」及び「臨床医学各論Ⅰ～Ⅷ」を配置し診断や治療に関する基本的事項を習得させる。
- ③ 「医療管理論」では、医療機関における専門事務職として「医療管理論Ⅰ&Ⅱ」で医療機関の組織管理を学び、「診療情報管理論」、「分類法総論」、「分類法演習Ⅰ」及び「分類法演習Ⅱ」で診療録の管理やコーディング等の診療情報管理士としての専門知識と技術を習得させる。
- ④ 「情報基礎」では、「コンピュータシステム」においてハード及びソフトのコンピュータ構成を教授し、「通信ネットワーク」、「データベース論」などコンピュータを活用するための基礎科目を配置し、「情報システム実験」、「情報ネットワーク実験」、「データベース演習」の実験及び演習科目により、座学で学んだ内容を体験させることで、確実な知識として習得させることに成功している。
- ⑤ 「情報応用」では、情報システムを開発するための基礎として「プログラム言語Ⅰ」、「プログラム言語Ⅱ」を通年で配置し、座学を確実な知識とするため同時に演習科目を設けている。更に、「情報システム開発論Ⅰ」、「情報システム開発論Ⅱ」で情報システム構築の際のドキュメント管理やプロジェクトマネジメント手法について学習している。
- ⑥ 「関連情報科学」では、情報関連の科目を理解する基礎となる「情報数学」、「情報理論」、「意思決定論」を配置し、更に「マルチメディア工学」、「デジタル信号処理」、「自然言語処理」などコンピュータを応用した技術に関する知識を講義することで、情報処理の対象とする領域の広さを感じさせ、様々な分野へ興味を抱かせる科目を配置している。
- ⑦ 「応用研究」では、「企業実習・病院実習」において大学の座学・演習等で学んだ知識や技術を企業や病院の現場において確認し、より確かな知識として習得させることを狙いとしている。また、「医療情報ゼミ」においては少人数のグループによる講義や演習活動により更に専門的な医療情報の知識や技術を習得することを狙いとしている。
- ⑧ 病院実習に関しては、平成 19 年度は、2 週間または 4 週間実習を実施したが、病院実習

は、他の科目の講義期間中に実施されるため、長期間の実習では他の科目に支障が生ずることから、平成 20 年度は、2 週間実習を基本として構成している。

(表 12 医療情報学科 病院実習の状況)

- ⑨ 企業実習に関しては、平成 19 年度は、2 週間または 4 週間実習を実施した。平成 20 年度は、初年度に比べ、受け入れ企業数は変わらないが、実習生の数は 2/3 程度になっており、実習期間も短くなっている。これは、企業が置かれている厳しい経済状況を反映していると考えられる。大学側としても企業側の負担とならないよう学生を実習生として送り出すこととしている。

(表 13 医療情報学科 企業実習の状況)

- ⑩ 卒業要件単位数は 126 単位である。専門教育科目（医療コラボレーション分野を含む）は開講 120 単位中、必修 87 単位、一般教養的科目は開講 38 単位中、必修 12 単位、外国語科目は開講 14 単位中、必修 6 単位である。卒業要件単位数に対する必修科目の割合は 83.3%でありやや高い。選択科目の単位数は、専門教育科目 33 単位、一般教養的科目 26 単位、外国語科目 8 単位であり、やや専門科目の選択科目が少ないと言える。

- ⑪ 専門科目（医療分野と情報分野）の 1～3 年次までの、必修科目における成績の状況は、医療分野と情報分野において成績評価に大きな差異はない。情報分野の選択科目は必修科目より成績が良い傾向にある。理由は、履修者がその分野を得意とする少数の学生に限られるためと考えられる。情報分野の必修科目の 1 年次の成績の経年データから成績が低下していることが読み取れる。

(表 14 医療情報学科 専門科目の成績（医療分野と情報分野）)

#### 「今後の改善・改革に向けた方策」

専門科目教育においては、人体構造や機能と医療情報処理との関連での科目が少なく、臨床医学関係の科目の理解が十分でない。今後は生体工学系の基礎的な演習を含む科目を追加して強化するとともに、また情報処理科目の演習（ゼミ）の中で、情報処理の基礎力の徹底を図ることとする。

また、情報も医療も国際化が激しい分野であるため、専門英語の強化を図り、海外研修等への参加等も積極的に進めることとする。

表 11 医療情報学科 専門科目一覧（専門職の教育）

分類	科目名	単位数	1 単位当 時間数	配当年次				科目		担当教員	
				1 年	2 年	3 年	4 年	必修	選択	専任	兼任
保健医療基礎	社会福祉総論	2	15	○				○			○
	健康管理概論	2	15			○		○		○	
	看護概論	1	15			○		○		○	
	臨床検査総論	1	15	○				○			○
	病院情報管理概論	1	15			○		○		○	
	医学用語	1	15		○			○			○
臨床医学基礎	臨床医学総論	2	15	○				○			○
	臨床医学各論Ⅰ	1	15	○				○		○	
	臨床医学各論Ⅱ	1	15	○				○		○	
	臨床医学各論Ⅲ	1	15	○				○			○
	臨床医学各論Ⅳ	1	15		○			○			○
	臨床医学各論Ⅴ	1	15		○			○			○
	臨床医学各論Ⅵ	1	15		○			○		○	
	臨床医学各論Ⅶ	1	15		○			○			○
医療管理学	医療管理論Ⅰ	2	15	○				○			○
	医療管理論Ⅱ	2	15			○		○			○
	診療情報管理論	2	15		○			○			○
	分類法総論	2	15		○			○			○
	分類法演習Ⅰ	1	30			○		○			○
	分類法演習Ⅱ	1	30			○		○			○
情報基礎	コンピュータシステムⅠ	2	15	○				○		○	
	コンピュータシステムⅡ	2	15	○				○			○
	データ構造とアルゴリズム	2	15	○				○			○
	通信ネットワーク	2	15		○			○		○	
	情報ネットワーク実験	1	45		○			○		○	
	数値計算法	2	15	○				○			○
	UNIX 概論	2	15		○			○		○	
	情報システム実験	1	45		○			○		○	
	データベース論	2	15		○			○		○	
	データベース演習	2	30			○		○		○	
	医療情報学	2	15	○				○		○	
マルチメディア演習	1	30	○				○			○	

分類	科目名	単位数	1 単位当 時間数	配当年次				科目		担当教員	
				1 年	2 年	3 年	4 年	必修	選択	専任	兼任
情報 応用	プログラム言語 I	2	15		○			○		○	
	プログラム言語 I 演習	2	30		○			○		○	
	プログラム言語 II	2	15		○			○		○	
	プログラム言語 II 演習	2	30		○			○		○	
	情報システム概論	2	15		○			○		○	
	情報システム開発論 I	2	15		○			○		○	
	情報システム開発論 II	2	15			○		○		○	
	情報セキュリティ	2	15			○		○			○
	情報システム運用管理論	2	15			○		○			○
	地域医療情報システム論	2	15		○			○			○
関連 情報 科学	情報数学	2	15	○					○		○
	応用数学	2	15		○				○		○
	情報理論	2	15		○				○		○
	オブジェクト指向言語	2	15			○			○	○	
	オブジェクト指向言語演習	2	30			○			○	○	
	Web システム演習	1	30	○					○	○	
	医用工学概論	2	15				○		○		○
	画像処理工学	2	15			○			○	○	
	マルチメディア工学	2	15			○			○		○
	デジタル信号処理	2	15				○		○		○
	意思決定論	2	15				○		○		○
	自然言語処理	2	15				○		○		○
	先端情報処理特論	1	15				○		○		○
応用 研究	医療情報ゼミ I	1	30			○		○		○	
	医療情報ゼミ II	1	30			○		○		○	
	企業実習・病院実習 I	2	45			○			○	○	
	企業実習・病院実習 II	4	45			○			○	○	
	医療情報ゼミ I	1	30			○		○		○	
卒業研究	4	45				○		○	○		

表 12 医療情報学科 病院実習の状況

実習先医療機関名	平成 19 年度（実績）		平成 20 年度（予定）	
	参加者数	実習期間	参加者数	実習期間
NTT 東日本電信電話株式会社関東病院	18	2 週間	21	2 週間
河北総合病院	3	2 週間	2	2 週間
武蔵野陽和会病院	4	2 週間	4	2 週間
東京臨海病院	3	2 週間	2	2 週間
永生病院	1	2 週間	—	—
横浜労災病院	2	2 週間	2	2 週間
草加市立病院	2	2 週間	—	—
北里研究所病院	6	2 週間	—	—
伊那中央病院	—	—	1	2 週間
東京通信病院	20	4 週間	28	2 週間
榊原記念病院	6	4 週間	4	2 週間
東京医科歯科大学病院	3	4 週間	2	3 週間
佐々総合病院	1	4 週間	2	2 週間
千葉中央メディカルセンター	1	4 週間	—	—
小千谷総合病院	1	4 週間	—	—
合 計	71	—	68	—

表 13 医療情報学科 企業実習の状況

実習先医療機関名	平成 19 年度（実績）		平成 20 年度（予定）	
	参加者数	実習期間	参加者数	実習期間
東京サラヤ	6	2 週間	4	2 週間
ジョンソン&ジョンソン	12	2 週間	5	2 週間
スリーエムヘルスケア	9	2 週間	4	2 週間
サクラ精機、サクラファインテック	3	2 週間	3	2 週間
日本光電株式会社	5	2 週間	2	7 日
ランドコンピュータ	3	2 週間	3	2 週間
インテージ	4	4 週間	3	5 日
キーウェア	2	2 週間	2	9 日
吉田製薬	3	2 週間	3	2 週間
スミス&ネフュー	2	2 週間	—	—
水野薬局	2	4 週間	—	—
東京薬剤師会	1	2 週間	—	—
日立製作所	2	2 週間	—	—
東邦薬品	2	2 週間	—	—
アトムメディカル	2	2 週間	—	—
NPO アビリティクラブたすけあい	1	2 週間	—	—
マーキュリーシスコム	—	—	1	2 週間
パラマウントベッド	—	—	2	2 週間
コア	—	—	2	2 週間
大正富山製薬	—	—	1	3 日
マッチロック	—	—	1	2 週間
ラジエンスクウェア	—	—	1	2 週間
合 計	59	—	37	—

表 14 医療情報学科 専門科目の成績（医療分野と情報分野）

	平成 17 年度	平成 18 年度		平成 19 年度			総 計
	1 年次生	1 年次生	2 年次生	1 年次生	2 年次生	3 年次生	
医療分野	68.3	72.6	78.4	74.2	83.8	78.8	77.7
(科目数)	(6 科目)	(6 科目)	(9 科目)	(6 科目)	(9 科目)	(6 科目)	
情報分野（必修）	82.2	77.4	75.6	75.8	76.4	82.1	78.2
(科目数)	(6 科目)	(6 科目)	(12 科目)	(6 科目)	(12 科目)	(6 科目)	
情報分野（選択）	77.4	86.4	87.8	86.2	84.7	79.9	83.7
(科目数)	(2 科目)	(2 科目)	(2 科目)	(2 科目)	(2 科目)	(5 科目)	

## (2) カリキュラムにおける高・大の接続

### 「現状及び点検・評価」

#### （共通科目）

- ① 本学における高・大の接続については、学科における学科の専門科目との関連で、医療栄養学科においては、「生物Ⅱ」及び「化学Ⅱ」を必修科目として配置している。
- ② また、医療情報学科においては、専門科目との関連で数学の基礎を理解することが必須であることから、基礎数学の特別補講を実施している。
- ③ なお、全学科必修の情報リテラシーにおいては、高校における情報教育の実情として、学生の習熟度に相当の差異があることから、授業内容を情報の初歩・基礎から実施している。
- ④ その他、高校で生物・化学・物理・数学等の基礎科目を履修していなかった学生を主たる対象に、「生物Ⅰ・Ⅱ」、「化学Ⅰ・Ⅱ」、「物理学」及び「基礎数学」を選択科目として配置しているが、現状では履修者が少なく、必ずしも大学側が意図した状況となっていない。

#### （看護学科）

- ① 本学の学生は AO 入試、指定校推薦、公募制推薦、一般入試選抜、センター試験利用等の多様な方法で入学しているため、医学・看護学基礎知識として必要な生物学、化学、物理学を習得していない学生も在学しているが、「医療のコラボレーション教育」や「専門職の教育」に設定されている専門科目を学ぶためには必修の知識である。
- ② 入学後、選択科目に生物学、化学の科目を配置しているが、苦手意識があるためか本学科学生の履修率は低い状況である。担当教員が授業や演習等の教育の中で補いながら進めているが、専門科目の学習能力に個人差が現れてきている。

#### （医療栄養学科）

- ① 医療栄養学科では、生物及び化学は管理栄養士専門科目の理解に必要な科目であり、専

門科目への導入をスムーズに行うための科目として、「生物Ⅱ」、「化学Ⅱ」を必修にしている。

- ② 更に、大学入学までに必ずしも化学・生物等の科目を学んでいない学生もいることから、必修科目となっていない「生物Ⅰ」、「化学Ⅰ」に対しても入学時ガイダンスなどで学習の必要性や学ぶ意義を説明し、本学科の教育目的の趣旨に沿うべく、なるべく生物、化学に理解を深め興味や関心を持たせるよう指導を行うなど基礎から専門への関連づけができるように配慮している。

#### （医療情報学科）

- ① 医療情報学科における高・大の接続においては、共通科目に記述したとおり、基礎数学の特別補講を実施している。また、「情報数学」及び「応用数学」を選択科目として配置し、専門科目の一部の理解向上を目指して数学の学力向上を図っている。
- ② 文系進学希望者が医療情報学科に入学し、入学後に基礎数学の必要性を認識するケースがあり、基礎数学の補講を実施している。また、補講を行うとともに、学生自身が基礎数学の必要性を認識し、自発的に勉強するよう指導する。具体的には、資格試験の問題を適宜授業で紹介することによって、どのような勉強が必要であるか、またそれに対して、学生自身の学力がどの程度であるかを認識させることとしている。

#### 「今後の改善・改革に向けた方策」

##### （共通科目）

- ① 高・大の接続という観点からは、大学における学習の仕方や大学生活のあり方等いわゆる初年次教育の必要性が高まっているとの認識に立ち、1年次前期に全学の必修科目について、演習形式で行うことが検討課題である。
- ② また、生物、化学、物理、数学等の基礎科目については、単に、高校で未履修の者への補講の内容だけでなく、大学教育にふさわしい魅力のある内容を加味した授業内容にし、より学生が積極的に履修できる授業科目になるよう改善を図ることとする。

##### （看護学科）

- ① 学生が大学教育への適用として、より良く本学科の専門的知識を理解することができるよう改善を図る必要がある。
- ② また、入試科目の見直しを行うとともに入学前に生物学、化学の科目が未修得である学生に対する指導対策が検討課題である。

##### （医療栄養学科）

- ① 本学科では入学した学生全員に「生物」プレイスメントテストを行い、様々な形態で入学した学生について、管理栄養士国家試験に対する動機付けや学習意欲の向上及び入学後の学力追跡等を継続的に実施しているが、今後は、追跡調査等を参考に、関連教科担当教育職員とも連携して、具体的な改善策を図る必要がある。
- ② 平成 21 年に完成年度が終了するため、大学設置基準改正等への対応として、教養教育

の充実や初年次教育更には政策課題に対応するための科目、新規科目の開講など、現在のカリキュラムを見直すため、新たに専門委員会等を設置し検討を進めているところである。更に、現行のカリキュラムでは、「生物Ⅰ」及び「化学Ⅰ」が必修科目ではなく、「生物Ⅱ」及び「化学Ⅱ」が必修科目となっていることなど、必修科目と選択科目の適正性なども検討して教育効果を向上させていくことが必要である。

(医療情報学科)

基礎数学の補講を実施しているが、個々の教員が授業内容に工夫をこらし、適宜、課題を出したり、プレゼミを行っている。今後は、基礎学力の補強に努める一方で、海外研修、学会の聴講、専門誌への投稿の機会を作るとともに、学生の視野を広げ、モチベーションをあげる努力を引き続き行うこととする。

表 15 医療情報学科における基礎数学の補講実施状況

補 講 実 施 期 間	実施回数	人 数
平成 19 年度 前期 5/11~7/20	11 回	20 名から 30 名
平成 20 年度 前期 4/15~6/30	10 回	5 名から 12 名

表 16 医療情報学科における企業・工場・病院見学の実施状況

見 学 実 施 日	見 学 先	人 数 (名)	備 考
平成 19 年 10 月	中央システム技研(株)	5	医療機器関連製品の開発工程見学
同 12 月	東芝住電医療情報システムズ(株)	5	同 上
同 8 月 24 日	アトムメディカル	3	
同 12 月 7 日	NTT グループショールーム 「NOTE」	7	
同 8 月 17 日	サクラファインテックジャパン	5	
平成 20 年 3 月 6 日	新樹苑	9	
同 3 月 12 日	埼玉県小児医療センター	2	
同 4 月 24 日	障害者施設 カリタスの家	4	
同 5 月 29 日	済生会 栗橋病院	3	

表 17 医療情報学科における学会の引率参加状況

実 施 時 期	学 会 名	参加人数 (名)
平成 17 年 11 月 24 日~26 日	第 25 回医療情報学連合大会	93
平成 18 年 3 月 4 日	ライフサポート学会 人と技術を支える技術フォーラム 2006	5
同 10 月 21 日	電子情報通信学会 第 4 回 QOS ワークショップ	2
平成 19 年 3 月 3 日	ライフサポート学会 人と技術を支える技術フォーラム 2007	6
同 5 月 25 日	医療機器学会展示会	14
平成 20 年 5 月 29 日	医療機器学会展示会	10
同 3 月 22 日	医療制度研究会	4

### (3) カリキュラムと国家試験

(看護学科)

「現状及び点検・評価」

- ① 本学科では4年間の教育課程を修了することで看護師、保健師の国家試験受験資格が取得できることになっている。したがって本学科の教育課程は保健師助産師看護師法及び保健師助産師看護師学校養成所指定規則を遵守するとともに、本学の理念、教育目的・目標を踏まえ、看護学科としての特徴あるカリキュラムの体系化を図っている。
- ② 現在、多様な医療現場で高度な医療や質の高い看護を提供できる知識と技術を持った看護師及び保健師の養成が望まれていることから、より良い人材を社会に送り出すためにも看護師及び保健師国家試験を受験する学生全員を合格させ免許を取得させることも重要な教育目標である。
- ③ 本学科では、平成20年度は本学が完成年度を迎え、初の卒業生が国家試験を受験する年度に当たるが、2年前から国家試験対策の検討を開始し、平成19年度から看護学科国家試験等委員会を設置して、当該委員会と学科の教員及び学生支援センターの協力・連携のもと、「国家試験合格100%」を目標にして支援体制を強化している。
- ④ 支援の活動としては、看護師及び保健師国家試験受験に向けて学生が主体的に学習に取り組めることを目的に、「学生への情報提供」、「学習環境の整備」、「模擬試験の実施と結果のフォロー」及び「補講の実施」の4項目を柱として実施している。
  - 学生への情報提供は、校舎内に国家試験関連情報の掲示場所を確保し、外部のセミナー情報等の国家試験対策情報の提供に努め、各学年にガイダンスを実施している。
  - 学習環境の整備  
国家試験対策用図書として、国家試験関連図書の整備・充実を図り、図書館内に国家試験関連図書コーナーを設置し、学生がいつでも利用できるように学習環境を整備している。
  - 模擬試験の実施と結果のフォロー
    - ・看護師及び保健師の国家試験模擬試験を各学年に計画・実施している。
    - ・1回生（現4年生）においては3年次から4年次の現在まで、看護師、保健師合わせて6回の模擬試験を実施してきた。そのうち3回は受験者数が全学生数の5割に満たなかったが、4年次では受験者が全体の6割～7割と増加傾向ではあるものの、他校と比べて受験率が低い状況にあり、学生の国家試験に対する危機意識の薄さや模擬試験を活用することの理解が不十分である。
    - ・また模擬試験の受験状況や成績から要支援学生を選別し、教員の個別面接指導支援が得られる体制を整えている。模擬試験は2年生、3年生も希望すれば受験可能であるが、未修得科目がある為、学年の学習進度にあった模擬試験を実施する予定である。
  - 補講の実施  
4年生には夏季集中補講を実施する。また学生の要望や学習状況によっては、冬期にも補講の実施を考えている。

## 「今後の改善に向けた方策」

- ① 早期からの国家試験対策に対する学生の意識づけの必要性  
1 回生の状況を参考にし、ガイダンスの時期や回数、更なる内容の検討とともに、講義や実習等あらゆる機会を捉えて意識づけていくことが必要である。
- ② 模擬試験の受験率を上げるための方策
  - ・ 国家試験対策を支援する上においても模擬試験結果の活用が効果的な方法であるが、受験者が少ないために、模擬試験の成績から全体の傾向を分析し支援策を検討することも難しい状況にある。
  - ・ ガイダンスのみならず折に触れて模擬試験受験の必要性や国家試験対策としての有用性を繰り返し説明して受験を勧め、模擬試験情報の周知や受験後のフォローの方法にも工夫を重ねて行く必要がある。
  - ・ また、受験状況が低い理由を追究し、模擬試験の受験を動機づけるための方策を立てることが課題である。
- ③ 国家試験合格ライン以下にある学生の支援策の必要性  
学生の学力の個人差は大きく、国家試験合格ラインに満たない学生の支援が早急に必要である。そのような要支援学生は危機意識が薄く、ガイダンスへの出席や模擬試験の受験が低い傾向にあることから、今後、国家試験等委員と卒業研究担当教員の連携により学生への密な関わり及び効果的な支援方策が必要である。

## (医療栄養学科)

### 「現状及び点検・評価」

- ① 管理栄養士養成課程は、平成 14 年 4 月施行による改正栄養士法に則って教育内容と目標が定められているので、本学科の教育課程はこれらの内容を踏まえながら、設立の趣旨である栄養学分野の高度専門職として、「チーム医療」の一員として、臨床の現場に対応できる管理栄養士の育成を目指している。
- ② さまざまな分野で高度な専門知識及び技能を持った管理栄養士の養成が望まれているが、医療栄養学科は、より多くの学生を管理栄養士国家試験に合格させ、管理栄養士の免許を取得させることが教育目標の 1 つと考えている。
  - 総合演習Ⅱの開設  
本学科では、4 年間学んできたことの総復習と管理栄養士国家試験合格に向けて、4 年次前期より「総合演習Ⅱ」を開設している。学科専任教育職員を中心として試験への取り組み方や心構えにいたるまでの指導を行っている。
  - 国家試験対策  
国家試験対策委員会を中心に、管理栄養士国家試験に向けて学科独自で作成した試験問題と、業者主催の模擬試験等を導入している。更に、4 年生全員を専任教員に割り振りグループ分けを行い、少人数での個別指導・対策も実施して、きめ細かいアドバイス等が行えるようにも配慮している。

### 「今後の改善に向けた方策」

平成 21 年 3 月が本学科卒業生にとっては、初めての管理栄養士の国家試験受験となるた

め、その結果等を踏まえてカリキュラムの見直しや学生への指導方法などを検討し、具体的な改善策を講ずる必要がある。

#### (4) ボランティア活動

##### 「現状及び点検・評価」

- ① 「ボランティア論」については、全学科の必修科目として1年次前期 Semester に配置するとともに、「ボランティア活動」については、開学当初、全学必修科目として配置し、主に8・9月の夏季休暇を利用してボランティア活動を正課としたが、短期間で個々の学生のボランティアに対する考え方を徹底し、全学生にボランティア活動に対する意欲を喚起することが困難であったことから、受入先の施設や団体との対応に苦慮したこともあった。
- ② また、ボランティア活動は、本来、個人の自主性・自発性に基づく活動ではないかとの意見も踏まえ、平成18年度からは「ボランティア活動」を選択科目に移行したが、選択科目に移行しても、必修科目である「ボランティア論」において、ボランティア活動についての啓発活動を図っていることから学生の半数以上が「ボランティア活動」を履修している状況にある。
- ③ 実際に行われたボランティア活動の場や内容等は、病院・献血センター等の医療機関、老人施設や介護施設等の福祉施設、保育園及び青少年施設等であり、期間は3日間から1週間以上など様々であった。また、この授業科目に対する学生の満足度は高く、担当教員の評価も良好である。

##### 「今後の改善・改革に向けた方策」

病院・献血センターの医療保健関係の職場では様々なボランティア活動が行われており、卒業後に働く職場においてボランティアと接する機会が多いことからボランティア活動の意義及びその内容の理解を深めるためできるだけ多くの学生が「ボランティア活動」の科目を履修するよう周知を図ることとする。

#### (5) 授業形態と単位の関係

##### 「現状及び点検・評価」

##### (全学科共通事項)

- ① 本学の授業形態は講義、演習、実験及び実習となっている。1単位の授業科目は4時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、講義・演習については15時間から30時間、実験・実習については30時間から45時間とし個々の授業科目ごとに授業時間を定めている。
- ② 共通科目の授業形態は次のとおりである。  
共通科目の45科目中、演習(30時間)は1科目、実習(30時間)は2科目であり、残りの42科目はすべて講義科目となっており、講義形態の科目が圧倒的多数を占めている。

#### (看護学科)

- ① 授業科目の1単位の時間数は、講義科目が15～30時間で1単位、演習及び実習科目は30～45時間で1単位である。1単位の時間設定は、授業科目・内容の特徴と関連科目とのつながりを考慮し1単位15時間で7週、1単位30時間で14週の授業設定を行い試験日は別に設定している。実習科目は1単位45時間に設定している。
- ② 特に専門科目の基礎看護学は実践応用科目の土台となる科目であることを考慮すると「基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ」の科目が各1単位30時間であり生活援助技術及び治療に伴う援助技術に対する講義と演習を行うには時間設定が少ない傾向にある。
- ③ また、基礎看護学領域の科目配当年次においては、「基礎看護技術Ⅰ（看護過程の展開）」は1年次後期、「基礎看護技術Ⅱ（生活援助技術）」は1年次後期、「基礎看護技術Ⅲ（治療に伴う援助技術）」が2年次前期である。「基礎看護技術Ⅰ（看護過程の展開）」のシラバスの授業内容は事例のアセスメントー看護診断ー介入までの展開、立案した介入方法の実施と評価、評価のフィードバックで構成している。
- ④ 看護師は対象となる人の健康回復のためのニーズを総合的にアセスメントした上で専門的に看護を提供しなければならない。1年生は一般教養科目の学習過程にあり、総合的判断が必要とされる看護過程を理解するためには専門科目の学習が進んでいることが必要であり、基礎看護学領域では1年次に「看護理論概論」、「看護対象論概論」を学んだ上で生活援助技術を「基礎看護技術Ⅰ」、治療に伴う援助技術を「基礎看護技術Ⅱ」として学習を積み重ねることとしている。更に2年次に他の専門基礎・専門科目も学習するため、それらを統合して「基礎看護技術Ⅲ」として看護過程の展開を教授し、「基礎看護学実習Ⅱ」につなげる方が学生にとっては学習効果が上がることから「基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の科目配置の変更を行っている。

#### (医療栄養学科)

専門科目〔専門基礎分野と専門応用〕を合わせた総単位数は、100単位・65科目で、そのうち実験・実習形式（必修科目と選択科目を含める）が占める総単位数は25単位・23科目、演習形式（総合演習Ⅰ・Ⅱ）、2単位・2科目、卒業研究（選択科目）4単位・1科目となっている。医療栄養学科は、実験・実習の授業が多く開講されているが、共通科目・専門科目・選択科目の振り分け及び各科目の履修学年との妥当性などの検討が必要である。

#### (医療情報学科)

医療情報学科の専門教育科目61科目中、演習（30時間）は10科目、実験・実習（45時間）5科目で、残りの46科目はすべて講義科目である。講義科目のうち、講義のみでは理解が困難と判断される科目は演習科目が連動するような科目構成をとっている。

#### 「今後の改善・改革に向けた方策」

講義科目については、1単位15時間とすることについては問題がない。また、演習、実験及び実習については、その授業内容により1単位の時間数を、15時間、30時間及び45時間と科目ごとに定めているが、実際に授業を実施した結果も踏まえ、定められた時間数で十分な教育効果を上げたかどうかについて、検証していく必要がある。

## (6) 単位互換・単位認定

### 「現状及び点検・評価」

(1) 本学では現在他大学等との単位互換は行っていないが、今後、積極的に検討を検討を進めることとしている。

(2) 単位認定については、学則に基づき入学前に他大学等で修得した単位を本大学における授業科目の履修により修得したとみなす、既修得単位の認定制度がある。具体的には、教務委員会の下に「既修得単位専門委員会」を設置し、学生から提出された申請書及び関係書類等を審査して単位の認定を行い、教務委員会の議を経て学部長が単位認定の承認を行うこととしている。

○これまでの認定結果は、平成 17 年度：認定者数 7 名、認定科目数 44、平成 18 年度：認定者数 5 人、認定科目数 22、平成 19 年度：認定者数 1 人、認定科目数 4 となっている。なお、認定科目の成績評価は、『認定』としている。

### 「今後の改善・改革に向けた方策」

学則上は、在学中に他大学及び大学以外の教育施設等で修得した学修を本学における授業科目の履修とみなすことや、他大学等との単位互換協定による単位認定も行うことができることとしており、今後は共通科目の中の一般教養科目を中心に単位互換について検討を行う必要がある。

## (7) 開設授業科目における専任・兼任比率

### 「現状及び点検・評価」

(共通科目)

「いのち・人間の教育分野」における専任の比率は一般教養や外国語科目が多いことから専任教員の比率は 40%と低いが、「医療のコラボレーション教育分野」における専任教員の比率は 54.5%と高くなっている。

(表 18 医療保健学部授業科目における専任・兼任担当科目数)

(看護学科)

① 本学科全体の教員組織としては概ね専任教員が対応している。看護専門における主要な授業科目については専任教員（教授、准教授、講師）が担当しており、配置状況は教育課程の面からも適切であるといえる。また、専門性の高い医学知識・活動等の内容によっては部分担当として非常勤講師を依頼しているが専任教員の担当域を超えることはない。

② しかし、技術演習のような少人数で展開する形態や臨地実習での担当教員については、実習施設が複数である場合は専任教員の負担が大きい現状である。なお、教員の欠員の状況により非常勤で対応している場合もあるが、兼任によって本学科の教育における支障は生じていない。

(医療栄養学科)

医療栄養学科においては、医療系科目についてなど幅広い分野の教育を行うため、学外専

門家に非常勤講師として指導を仰ぐことは好ましいことと考えるが、専任教員の専門・専攻領域を検討し、教育職員配置等の適正化を図るとともに担当授業時間数の調整を含め専任・兼任比率について検討する必要がある。

(医療情報学科)

医療情報学科の専門職の教育における科目は、専門性が必要である科目が多く、兼任教員に多くを依頼している。一方、他の専門科目の基礎となる科目に関しては、極力専任教員が教育を行うこととしている。

「今後の改善・改革に向けた方策」

共通科目の「いのち・人間の教育分野」については、語学を始め一般教養的な科目が多く、今後とも専任教員の比率が低くなる状況にある。各学科の授業科目における専任・兼任担当科目においては、専門職の教育についての基礎となる科目については専任教員が担当し、より専門性の高い科目については兼任教員が担当する傾向となっており、今後は、専門科目のカリキュラムの改善を進める中で、専任教員の専門・専攻領域等を勘案しながら専任・兼任比率を検討する必要がある。

表 18 医療保健学部授業科目における専任・兼任担当科目数

学部・学科	授 業 科 目	専任担当 科目数(A)	兼任担当 科目数(B)	科目数計 (C)	専任比率(%) (A/C)		
医 療 保 健 学 部	全 学 科 共 通	いのち・人間の教育	必 修	6	6	12	50.0
			選 択	10	18	28	35.7
			計	16	24	40	40.0
	医 療 の コ ラ ボ レ ー シ ョ ン 教 育	必 修	6	4	10	60.0	
		選 択	0	1	1	0.0	
		計	6	5	11	54.5	
	小 計		22	29	51	43.1	
	看 護 学 科	必 修	12	8	20	60.0	
		選 択	8	19	27	29.6	
		計	20	27	47	42.6	
	医 療 栄 養 学 科	必 修	11	10	21	52.4	
		選 択	11	15	26	42.3	
		計	22	25	47	46.8	
	医 療 情 報 学 科	必 修	15	7	22	68.2	
		選 択	10	16	26	38.5	
計		25	23	48	52.1		
合 計		89	104	193	46.1		

## (8) 生涯学習への対応

### 「現状及び点検・評価」

本学としては、公開講座を積極的に実施するなど生涯学習への対応は行っているが、医療保健学部の学士課程教育においては、生涯学習の機会を提供する措置としての、社会人入学、編入学、科目等履修生及び研究生制度は設けていない。

### 「今後の改善・改革に向けた方策」

学士課程教育における生涯学習への対応については、今後の検討課題である。

## <学士課程の教育方法等>

### (1) 教育改善への組織的な取組

#### ① シラバスの作成と活用状況

##### 「現状及び点検・評価」

本学では、1年次配当の授業科目については、学科別の履修案内に全授業科目のシラバスを掲載し全員に配布している。また、2年次から4年次まで配当の授業科目については学内情報システム（デスクネット）に掲載しており、学生がいつでも自分のパソコンを使用し、検索できることから利便性が図られている。

なお、シラバスの体裁・記載内容は全授業科目統一し、主な内容は、「講義の目標及び概要」、「授業計画」、「評価方法」、「テキスト」及び「参考図書」としている。

### 「今後の改善・改革に向けた方策」

現在は、デスクネット掲載のシラバスは、担当教員が直接書き込めるシステムにはなっていないので、将来は、1年次配当のシラバスも含め、担当教員が直接、内容の変更・訂正等ができるよう簡素化及び利便性を高める必要がある。

#### ② FD活動に対する組織的取組

##### ○学生による授業評価

##### 「現状及び点検・評価」

- ・本学では、開学当初から学長を委員長とするFD委員会により、全開講科目について学生による授業評価アンケート調査を実施している。
- ・調査の具体的方法は、原則、最終授業日または定期試験の前後に、教務部の職員が教室に出向きアンケート用紙を配布し、その場で記入の上回収することとしており、回答率は82%と高くなっている。
- ・アンケートの質問項目は「学生として、自分自身の授業態度について」、「授業内容について」、「教員の教え方について」、「教員の姿勢について」及び「総合評価」に基づいた合計18項目により、「そう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」「全くそう思わない」「無回答」に○印をつけることとしている。
- ・平成19年度の実施結果の全質問項目平均では「そう思う」(33.0%)及び「ややそう思う」(33.8%)を合わせて概ね70%の学生が授業に対して肯定的にとらえていることがわかる。また、自由記述については、授業に対する肯定的評価、授業に対する批判・要望、施設・設備への不満などがあり、これらを踏まえて授業内容・方法等の改善に資することとしている。
- ・また、専任教員の授業評価アンケート調査結果については、当該教員に配布すると

ともに、当該教員からの調査結果に対する感想及び授業内容方法への改善などの取り組みを、各学科長がまとめ、授業評価アンケート調査結果とあわせて公表している。

(表 19 平成 19 年度授業評価アンケート結果)

「今後の改善・改革に向けた方策」

授業評価のアンケートに関する学生への意識啓発を積極的に行うとともに、質問項目の見直しや評価結果を踏まえた授業内容・方法の改善に引き続き取り組む必要がある。

表19 平成19年度 授業評価アンケート結果

○全科目数 219科目

○調査対象者数 25,209人(延人数)

○総回答数 20,558枚(回答率 82%)

1. 質問項目別集計結果(上段( )は平成18年度アンケートの結果)

質問項目	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
<b>I 学生として、自分自身の授業態度について</b>	%	%	%	%	%	%	%
1. 授業態度はよかったと思うか。	(40.6) 37.6	(34.0) 37.1	(21.2) 21.6	(3.4) 2.9	(0.7) 0.7	(0.1) 0.1	(100) 100
2. 出席率はよかったと思うか。	(66.0) 63.6	(20.4) 21.4	(10.8) 12.5	(2.1) 1.9	(0.5) 0.5	(0.2) 0.1	(100) 100
3. 積極的に取り組んだと思うか。	(36.3) 33.9	(34.0) 36.1	(24.5) 25.2	(3.9) 3.7	(1.0) 1.0	(0.3) 0.1	(100) 100
計	(47.7) 45.0	(29.5) 31.6	(18.8) 19.8	(3.1) 2.8	(0.7) 0.7	(0.2) 0.1	(100) 100
<b>II 授業内容について</b>	%	%	%	%	%	%	%
4. 授業に興味・関心が持てたと思うか。	(33.3) 31.1	(37.6) 39.0	(22.4) 23.7	(4.4) 4.5	(2.0) 1.6	(0.3) 0.1	(100) 100
5. 授業内容をよく理解できたと思うか。	(22.4) 20.6	(36.0) 37.9	(30.1) 31.2	(8.4) 7.9	(2.9) 2.3	(0.2) 0.1	(100) 100
6. この授業内容は将来役立つと思うか。	(40.8) 38.3	(33.5) 34.3	(20.1) 22.2	(3.6) 3.8	(1.8) 1.3	(0.2) 0.1	(100) 100
7. この授業は他学科の人等にも薦めたいと思うか。	(26.3) 24.8	(28.8) 30.6	(32.9) 34.4	(6.7) 6.4	(5.0) 3.7	(0.3) 0.1	(100) 100
計	(30.7) 28.7	(34.0) 35.5	(26.4) 27.9	(5.8) 5.6	(2.9) 2.2	(0.2) 0.1	(100) 100
<b>III 教員の教え方について</b>	%	%	%	%	%	%	%
8. 授業はシラバスに沿って行われたと思うか。	(32.9) 30.9	(33.2) 36.4	(29.4) 28.6	(2.8) 2.7	(1.3) 1.1	(0.4) 0.3	(100) 100
9. 授業に集中できる雰囲気が保たれていたと思うか。	(31.5) 29.8	(33.2) 35.5	(26.0) 27.2	(6.7) 5.7	(2.4) 1.7	(0.2) 0.1	(100) 100
10. 教員の声や言葉は明瞭で聞き取りやすかったと思うか。	(36.0) 32.8	(30.8) 32.4	(22.9) 25.1	(7.2) 6.8	(2.9) 2.7	(0.2) 0.2	(100) 100
11. 教員は適切に板書を活用したと思うか。	(31.2) 28.7	(29.6) 31.9	(28.1) 30.5	(7.6) 6.3	(3.2) 2.4	(0.3) 0.2	(100) 100
12. 教員は教科書・プリントを適切に用いたと思うか。	(35.4) 32.9	(32.4) 34.3	(24.2) 25.9	(5.4) 4.9	(2.3) 1.8	(0.3) 0.2	(100) 100
13. 教員は質疑応答の機会を適切に作ったと思うか。	(32.4) 30.0	(30.5) 32.5	(28.5) 30.4	(5.7) 5.2	(2.5) 1.6	(0.4) 0.3	(100) 100
14. パワーポイント等、マルチメディアの利用は適切だったと思うか。	(32.0) 29.2	(26.0) 29.7	(32.7) 33.4	(5.1) 4.8	(3.3) 2.4	(0.9) 0.5	(100) 100
計	(33.0) 30.6	(30.8) 33.3	(27.4) 28.7	(5.8) 5.2	(2.6) 1.9	(0.4) 0.3	(100) 100

質問項目	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
<b>IV 教員の姿勢について</b>	%	%	%	%	%	%	%
15. 教員は限られた授業時間を適切に活用したと思うか。	(37.7) 34.4	(33.5) 34.9	(22.1) 24.7	(4.1) 4.0	(2.2) 1.7	(0.4) 0.3	(100) 100
16. 教員は授業に熱意を持って臨んでいたと思うか。	(42.9) 39.2	(31.7) 33.8	(19.9) 22.3	(3.2) 3.0	(1.9) 1.4	(0.4) 0.3	(100) 100
17. 教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思うか。	(29.7) 27.7	(31.7) 33.9	(28.2) 29.7	(6.6) 5.9	(3.4) 2.5	(0.4) 0.3	(100) 100
計	(36.8) 33.8	(32.3) 34.2	(23.4) 25.6	(4.6) 4.3	(2.5) 1.8	(0.4) 0.3	(100) 100
<b>V 総合評価</b>	%	%	%	%	%	%	%
18. この授業は総合的に満足できたと思うか。	(29.6) 28.0	(34.4) 35.9	(24.5) 26.2	(5.7) 5.5	(3.0) 2.3	(2.8) 2.1	(100) 100
<b>全質問項目の平均</b>	(35.3) 33.0	(31.7) 33.8	(24.9) 26.3	(5.2) 4.8	(2.4) 1.8	(0.5) 0.3	(100) 100

## 2. 自由記述集計結果

○回答者数 2,630枚

内容	件数	主なもの
授業に対する肯定的評価	1,124	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい授業だった。</li> <li>・面白い授業だった。</li> <li>・丁寧で、分かりやすい授業だった。</li> <li>・役に立つ・ためになる授業だった。</li> <li>・興味・関心が持てる授業だった。</li> </ul>
授業に対する批判・要望	1,153	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書が分かりづらかった。</li> <li>・説明が分かりづらかった。</li> <li>・無駄な時間が多かった。</li> <li>・配布資料が分かりにくかった。</li> <li>・授業回数を増やして欲しい。</li> </ul>
施設・設備等への不満	41	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調が悪い。</li> <li>・教室が狭い。</li> <li>・マイクの音量が小さい。</li> <li>・板書・ホワイトボードが見にくい。</li> <li>・パワーポイント・ビデオが見にくい。</li> </ul>
その他	312	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかったが、レポート量が多かった。</li> <li>・応用に活かせるか不安です。</li> <li>・実習で失敗してもアドバイスが貰えて良かった。</li> <li>・内容は難しいが、先生の人柄は楽しかった。</li> <li>・寝てしまう事が多く、もっとしっかり授業を受けたかった。</li> <li>・試験、レポート頑張ります。</li> <li>・覚えることが多くて大変だった。</li> </ul>
計	2,630	

## ○FDの研修会等

### 「現状及び点検・評価」

- ・FDの研修としては、平成17年度に、FD委員会の主催により、全教職員を対象に5回の講演会を実施した。講演等の内容としては、開学初年度ということもあって、教職員の大学に対する共通意識を高めることを目指した内容を中心に、理事長や学長など学内の講師3名及び学外の講師2名による講演を実施した。
- ・平成20年度においては、FDへの取り組みとして、本学の教育に係る課題と将来展望をテーマとしてFD委員会主催により「東京医療保健大学を語る会」を実施することとした（平成20年10月29日（水））。この語る会は、全教員が一同に会し、各学科長から推薦された各学科講師または助手各1名（計3名）が本学の教育に係る課題等を発表し、その後、意見交換等を行うものである。これを契機として、今後、FDへの取り組みが積極的に行われるものと期待される。

### 「今後の改善・改革に向けた方策」

FDへの取り組みに当たっては、各教員への意識啓発を積極的に行うとともに、今後も授業内容・方法等の改善に資する研修会等を企画・実施することが必要である。

## (2) 教育効果の測定

### 「現状及び点検・評価」

#### (全学共通事項)

教育効果の測定については、主に、「学生による授業評価アンケート調査」、「 Semester毎の定期試験またはレポート」及び「授業における小テスト、小レポート等」により行っているが、共通科目の「いのち・人間の教育分野」に関しては、一般教養的な科目が中心であり、全学的な見地から教育効果の測定をすることは行っていない。しかし、「医療のコラボレーション教育分野」については、各学科の医療・医学分野の専門基礎的な性格を持ち、国家試験等の内容に係る科目であることからそれらの試験の結果が教育効果の測定の参考になると考えられる。

#### (看護学科)

- ① 本学科では授業や実習については看護の各領域で、領域の教育目標の達成や成果をあげるために各教員個人で実施するものや、領域で話し合っ て工夫して作成した評価法を実施し、領域教員間で検討共有し研鑽している。各領域で行っていることが本学科の教育効果の向上につながっているものと考えられる。
- ② また各領域で教育上の問題としてあげられる事柄には、看護学科会議において検討を行い改善を図っている。履修指導においても看護学科委員会を通じ組織的に行っているが、今後、教育効果を測定する機能的及び有効性のある方策を検討する必要がある。

#### (医療栄養学科)

- ① 医療栄養学科における教育効果の測定については、それぞれの担当教員の裁量によっているが、出席状況、授業への取り組み意欲や授業中の質問状況、小テスト、レポート課題に対する学習状況の分析、前期及び後期 Semesterテストの成績（本試験・再試験）等によって学生の理解度を総合的に確認している。

- ② 実験・実習など実技形態の授業においては、出席を重視するとともに授業内容に伴う課題・レポート類の提出あるいは口頭発表、視聴覚機器等を使用したプレゼンテーションなどを実施している。
- ③ 本学科は、管理栄養士国家資格を取得することを目的の1つとしており、教育効果を判断する指標の1つとして国家試験の受験率と合格率があげられるが、平成21年3月に初めて卒業生を送り出すことから、国家試験の結果を踏まえて改善を図ることが必要である。
- ④ もう1つの指標は、卒業後の専門分野への就職率である。医療栄養学科という特徴から、病院栄養士を志す学生も多く、管理栄養士としての専門性が活かされる分野に就職した学生の割合等を、今後も引き続き追跡検討していく必要がある。そこで、就職委員会において学生支援センターとも連携を図りながら対応を行っている。

(医療情報学科)

- ① 医療情報学科においては、「定期試験またはレポート」、「実験、演習については、毎回の実験、演習後の結果報告」、「授業における小テスト、レポート」、「病院、企業実習では、事前レポート、事後報告（報告発表とレポート）」を用いて、学生の教育効果を測定している。
- ② また、学生に初級システムアドミニストレータ、基本情報技術者、医療情報技師並びに診療情報管理士のいずれかの資格試験合格を推奨し、正規の授業の外に2年次に向けた資格試験対策講座を開講している。しかし資格によっては、試験範囲がカリキュラムを越えて高度・広範囲である、講座が単位認定されない、資格取得即就職に直結するとは限らない、という理由から受講率が低く、医療情報学科の教育効果を資格試験合格率で測定することは困難な状況である。

表 20 医療情報学科における資格試験対策の実施状況

資格名	対策実施日	参加人数(名)
初級システムアドミニストレータ	平成19年 2月	50
	同 8月	25
	同 9月	4
	平成19年 11月～平成20年 3月	15
基本情報技術者	平成19年 2月	20
	同 9月	7
	平成20年 3月	10
	平成20年 5月～平成20年 7月	(週) 1
医療情報技師	平成19年 6月	12
	同 7月	10
	同 7月	6
	同 8月	5
	平成20年 5月	25
	同 6月 7日	20
	同 6月 28日	18
同 7月 15日	6	
診療情報管理士	平成19年 10月 3日～ 平成20年 1月 23日の毎週水曜日、 1月 25日(金)、2月 1日(金)、2月 6日(水)、2月 8日(金)	平均 20名

表 21 医療情報学科における資格試験合格者数

	初級システムアド ミニストラータ	基本情報技術者	医療情報技師	診療情報管理士
平成 17 年入学	13 名	8 名	1 名	5 (受験者数 34) 名
平成 18 年入学	13	4	未	未

「今後の改善・改革に向けた方策」

教育効果の測定については、今後、国家試験及び各種資格試験の受験率及び合格率などの結果を踏まえて検討を行う必要がある。

(3) 厳格な成績評価の仕組み

「現状及び点検・評価」

(全学共通事項)

- ① 学修の成績評価は、学則及び履修規程により、筆記試験、レポート、実技及び平素の成績により行うこととしている。また、授業の欠席が定められた授業回数に対して、一般講義科目及び演習科目においては 3 分の 1、実験・実習科目においては 5 分の 1 を超えた場合は単位の認定は行わないことを原則としている。
- ② また、追・再試験は原則 1 回としている。追試験の成績は最高 80 点とし、再試験の成績は C または D とする。点数・評価・単位認定については次のとおりである。

点 数	評 価	単位認定
100 ~ 80	A	合
79 ~ 70	B	合
69 ~ 60	C	合
60 点未満	D	不合格

- ③ 本学では現在履修科目登録の上限は設定していない。しかし、共通科目及び各学科の専門科目とも配当年次が各セメスターごとに設定されており該当するセメスターでしか履修できない仕組みになっている。また、看護師や管理栄養士の国家試験の関係から必修科目が多くカリキュラムも段階的に配置されていることから、1 セメスター内に多くの科目の履修をすることが困難な状況になっている。ただし、必修科目で当該年度に合格できなかった場合は、履修規程により次年度以降に再履修をすることが認められている。

(共通科目)

- ④ 共通科目については、大学全体としての統一した評価方法や評価基準を設けず、科目担当の教員がシラバスに評価方法や評価基準を公表し、それに基づき成績の評価を行っている。ただし、英語関連科目のような複数の教員がクラス別で同一科目を担当する場合においては、教員間で一定の評価基準を設け評価を行っている。

#### (看護学科)

- ① 成績評価は、講義、演習及び臨地実習科目によって成績評価の方法は異なるが、試験、レポート、実技試験、臨地実習における看護実践及びその記録、出席状況など知識・技術・態度の面から総合的に評価している。評価方法は各々の科目の教育方法によってそれらを組み合わせて評価している。
- ② 各専門領域の教員はそれぞれの授業科目は責任をもって担当し、臨地実習においては実習開始から終了まで学生と行動をともにし、実習現場で直接指導する体制をとり、学生の履修状況を的確に把握する体制をとり評価を行っている。成績評価は、担当教員の責任により作成されたものを各専門領域で照合・確認を厳格に行っている。
- ③ 成績評価の基準は学則及び履修規程で明確に定められており、教員はそれに則り実施している。また科目の授業計画、内容及び具体的な評価方法についてもシラバスに明示するとともに授業開講時のガイダンスにおいて学生が確認できるようにしている。

#### (医療栄養学科)

- ① 医療栄養学科における成績評価は、各授業担当者によって異なり、大部分は定期試験に加えて、授業中の小テスト、レポート課題の提出、出席状況などの総合評価・判定によって行われている。現在の評価方法や基準については、シラバス及び各授業の開講時等を通じて学生に周知徹底が図られていることから、公平性は保証されている。
- ② また、専門教育科目の中で実験・実習の占める割合が比較的多いため、毎回（週）のレポート提出と評価、実技の習得状況を評価する実技試験、そして授業態度、出席状況等を加味して総合的に評価を行っている。しかし、3年次以降に臨地実習参加によって、授業の欠席が多くなる場合もある。これは学科の特徴でもあるが、厳格な成績評価を行うために、欠席した部分の内容を補完するための補講等を実施している。
- ③ 更に、本学科では専任教員によるアドバイザー制度を導入し、1学年（定員100名）を3クラスに分割し、4年間同じ専任教員が継続して担当することにより、きめ細かな履修指導なども行える体制を組んでいる。今後は、卒業時の学生の質の確保などを目指し、国家試験合格状況等を分析した上で、成績基準等についても再検討する必要がある。

#### (医療情報学科)

医療情報学科においては、学則及び履修規程に定めるほか、科目担当の教員がシラバスに評価方法や評価基準を公表し、それに基づき成績の評価を行っている。

#### 「今後の改善・改革に向けた方策」

学修の成績評価方法や出席すべき授業回数は履修規程により定められおり、また、各科目のシラバスにおいても評価方法について明記されている。現在、評価はA・B・C・Dの4段階であるが、今後は、GPA制度の導入を視野に入れ、Aの評価を2段階（100点～90点ⓐ、89点～80点A）とすることなど、より厳格な成績評価の仕組みについて検討を行う必要がある。

#### (4) 履修指導

##### 「現状及び点検・評価」

##### (全学共通事項)

- ① 履修指導は、新入生に対しては、全学及び学科別のガイダンス時に教務部及び各学科の担当教員を中心に行っている。また、本学は専任教員によるアドバイザー制度を設けており、個別面接時にも履修指導を行っている。
- ② 2年次生からは、年度初めに学科ごとに学年別ガイダンスを実施し、その中で詳細な履修指導を行っている。なお、教務部から年度末に確定した全学生の成績を各学科長に送付し、特に、単位取得状況の悪い学生に対して当該学科のアドバイザー教員から個別指導等を行っている。
- ③ また、各セメスターごとに、定期試験の結果、追・再試験の対象者になった学生の保証人にその旨の文書を送付し、保証人からも当該学生に対して単位取得のための学修を奨励するよう要請している。

##### (看護学科)

- ① 看護学科の必修総単位数は120単位で、卒業要件単位数は126単位以上である。看護学科における履修単位数は次のとおりである。

表 22 看護学科履修単位数

教育分野	必修	選択	卒業必要単位数
いのち・人間の教育	16単位	4単位以上	20単位以上
医療のコラボレーション教育	16単位	2単位以上	106単位以上
専門職の教育	88単位		
合計	120単位	6単位以上	126単位以上

- ② 以上の単位を卒業時まで確実に履修できるように新入生にはガイダンスを3日間かけて行い、また1年次から4年次の前期・後期セメスターの開始時に学年ごとに円滑な学業への導入と科目履修のためのガイダンスを行っている。特に看護学科においては臨地実習科目23単位を履修することとしているが、臨地実習科目を履修するには当該実習科目の履修前提条件科目を設定し、授業・演習と臨地実習を統合して学習することをねらいとしている。

##### (表 23 看護学科実習科目履修条件)

- ③ 学生によっては順調に学業に打ち込むことができない学生や学習意欲の低下あるいは生活管理ができず授業出席日数不足によって履修科目単位を修得できない学生もいる。しかし、親族等の死亡による忌引き、災害または交通機関の運転中止による通学不能、学校保健法施行規則に定める伝染病に罹患した場合による欠席は欠席回数には算入せず所定の手続きにより適切な措置を講じ履修指導・支援を行っている。

- ④ 履修科目が再履修になった場合、本学科では、再履修を要した学生に対して再履修支援を行うための申し合わせ事項を作成し、科目担当者と教務委員会が連携して学生が支障なく再履修できるための支援システムを作っている。支援の対象は、講義・演習・実習科目が再履修となった学生であり、支援の方法として学生本人が当該科目担当者に相談し教員は学生とともに卒業までに通常授業を再履修できるか否かの確認、あるいは特別クラスを開講するなどして学生の再履修のための指導・支援を図り学生とともに再履修計画を作成し教務部に提出することとしている。実習科目が再履修となった学生に対しては科目担当者、教務委員会及び実習委員会の連携の下に再履修支援を実施しているが実質的には正規の4年間の修業年限で卒業要件単位を履修することが難しい学生も存在している。
  
- ⑤ 学習意欲の低下あるいは成績不振、健康上の問題により進級はするものの当該学年配置科目の単位を複数科目取得できない学生や休学するなどした学生は各学年に存在する。学生それぞれの条件は異なるが先の相談・支援システムの下に科目担当者、教務委員会、学生委員会及びアドバイザー等が連携し、早期に学生の問題解決を図ることが重要であり、今後も支援体制の充実を図ることとしている。

表 23 看護学科実習科目履修条件

実習科目名	開講年次	履修前提科目
基礎看護学実習Ⅰ	1年	看護対象論概論 看護理論概論
基礎看護学実習Ⅱ	2年	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護技術Ⅲ
精神看護学実習	3年	精神機能論 精神保健論 精神看護援助論
臨床看護学実習Ⅰ	3年	成人看護対象論 臨床看護援助論Ⅰ 臨床看護援助論Ⅱ 臨床看護援助論Ⅲ 臨床看護援助論Ⅳ 臨床看護援助論Ⅴ
臨床看護学実習Ⅱ	3年	成人看護対象論 臨床看護援助論Ⅰ 臨床看護援助論Ⅱ 臨床看護援助論Ⅲ 臨床看護援助論Ⅳ 臨床看護援助論Ⅴ
臨床看護学実習Ⅲ	3年	成人看護対象論 臨床看護援助論Ⅰ 臨床看護援助論Ⅱ 臨床看護援助論Ⅲ 臨床看護援助論Ⅳ 臨床看護援助論Ⅴ
臨床看護学実習Ⅳ	3年	成人看護対象論 臨床看護援助論Ⅰ 臨床看護援助論Ⅱ 臨床看護援助論Ⅲ 臨床看護援助論Ⅳ 臨床看護援助論Ⅴ
小児看護学実習	3年	小児看護援助論Ⅰ 小児看護援助論Ⅱ
母性看護学実習	3年	母性看護対象論 母性看護援助論Ⅰ 母性看護援助論Ⅱ
老年看護学実習	3年	老年看護対象論 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ
地域看護学実習	4年	地域看護学概論 地域看護活動論Ⅰ 地域看護活動論Ⅱ 地域看護活動論Ⅲ

(医療栄養学科)

- ① 医療栄養学科は、1 学年（定員 100 名）を 3 クラス（1 クラス 40 名以下）とし、1 クラスに 2 人のアドバイザー（主アドバイザーと副アドバイザー）を配置して、入学時から卒業時に至るまでの 4 年間同一専任教員が担当し個別指導を図っている。
- ② 各種資格（栄養教諭課程を含む）については、学科内のそれぞれの担当教員が別途オリエンテーションを実施し、その内容や履修方法等の指導を実施している。特に、臨地実習などについては、学外で実習できる資質や能力を備えた学生であることを保証するため、それぞれの実習への履修要件を設けて、管理栄養士資格を持つ教員が事前・事後指導、巡回指導を含め指導に当たっている。また、4 年次から開講される卒業研究選択については、3 年次前期から指導担当予定の教員によるプレゼンテーション（説明会）を実施して学生の卒業研究選択のために配慮をしている。
- ③ 進級要件については、特に定めていない。したがって、再履修となった場合は、次年次の必修科目と時間割上重複し、履修できないことが起こる場合もある。この場合は、4 年間で卒業できない可能性もあるので、履修単位は、開講されている年次に確実に取得するように指導を行っている。

(医療情報学科)

- ① 新入生は、入学時の学科別ガイダンス、2 年次以降は年度始めに学年別ガイダンスを実施している。特に単位取得状況の悪い学生及び出席状況の悪い学生に関しては、医療情報学科のアドバイザー教員並びに教務委員の教員で個別指導を実施している。
- ② クラスアドバイザーは、平成 18 年度までは 1 年次生のみ配置したが、学生へのフォローアップを手厚くするために、平成 19 年度からは 2 年次生にもクラスアドバイザーを配置した。また、3 年次生、4 年次生はクラスを更に少人数にした医療情報ゼミ単位でクラスアドバイザーとして、指導することとしている。

表 24 医療情報学科クラスアドバイザー

年 次	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
1 年次生	津村 宏 教授	津村 宏 教授	阿部威郎 教授
	山下和彦 准教授	深澤弘美 講師	佐藤 均 教授
	深澤弘美 講師 (総合)	駒崎俊剛 助手	山下和彦 准教授
	—	史 虹波 助手	深澤弘美 講師
2 年次生	—	—	津村 宏 教授
	—	—	深澤弘美 講師
3 年次生	—	—	阿部威郎 教授
	—	—	佐藤 均 教授
	—	—	津村 宏 教授
	—	—	比江島欣慎 准教授
	—	—	山下 和彦 准教授
—	—	深澤 弘美 講師	

### 「今後の改善・改革に向けた方策」

履修指導については、全学的には、4月初旬に、各学科各学年ごとにガイダンスを行い、当該年度の開講科目の説明や履修登録の指導を行っている。また、日常的な履修指導は学科の専任教員によるアドバイザーを中心に行っているが、成績不振者や健康上の理由による欠席が多い学生に対する履修指導については、できる限り早期に対応するため、今後は、学生の成績を管理している教務部、健康管理を行っている保健室及び当該学生のアドバイザー教員が相互に連携を密にし、より適切な履修指導を行う必要がある。

## <国内外における教育・研究交流>

### 「現状及び点検・評価」

#### (全学共通事項)

- ① 本学の国際交流は、全学的及び学科単位による事業を2本立てで実施している。全学的なプログラムとしては、看護学科、医療栄養学科、医療情報学科3学科合同の海外研修を開学2年目より実施している。医療における多職種間協働が今後一層重要性を増すと考えられることから、3学科合同の海外研修を通じて、在学中から協働意識を醸成し、情報交換、相互理解を図ることを目的としている。同時に海外の先進事例からの学習を通じて知見を深め、日本の医療の将来を広い視野で考える機会を学生に提供することを意図している。更に、短期ではあるがホームステイを組み込んで、異文化間交流、異文化理解及び外国語による積極的コミュニケーションの促進も目指している。  
(表 25 海外研修の実施状況)
- ② 本学の海外研修の特徴としては、事前研修、現地研修及び事後研修を一連の研修として位置づけていることである。学生は、事前に大学において、訪問国の医療制度や研修施設の特徴などに関して講義を受け、帰国後は引率教員を中心に現地での見聞を復習し理解を深める。そして、全学を対象にして研修報告会を開き、研修に参加できなかった学生にも参加者の知見を伝達する機会を設けている。報告会後には、参加者各自が研修報告書を提出して、最終的には、3学科合同の研修報告書を作成している。この全プロセスを通じて、学生には、研修後の大学での学習意欲向上及び将来の職業への意識向上などが見られる。
- ③ また、本学の教育目標に基づき、企業実習及び病院実習など現場での実践を重視した教育を行っているが、実践力に富んだ人材を育成するため、海外の大学及び関係機関への海外派遣及び海外実習を積極的に推進するとともに、国際交流協定の締結を目指し、実践を重視した教育及び研究の充実・発展を図るため、平成20年度において東京医療保健大学の「国際交流に関する基本方針」を定めたことにより、今後、国際交流に関しての全学的な取り組みの一層の進展を図ることができる。

#### (学 科)

全学的な海外研修プログラムとは別に、看護学科及び医療情報学科では、学科単位での国際交流及び海外研修を推進しており、ホームステイ、現地学生や専門職との交流もプログラムに組み込み、専門領域の学習のみならず、異文化理解や国際感覚を養う機会も提供している。

① 看護学科

看護学科は、学科内にも国際交流委員会を設置し、これまでに、平成 18 年度にアメリカのシアトル市に立地するシアトル・パシフィック大学保健科学学部において、看護専門研修を実施し、またニューヨークのレーマン大学看護学の教授を本学に招聘して講演会を開催している。今後も学科内国際交流委員会を中心に幅広い国際交流、研修活動を継続していく予定である。

② 医療栄養学科

- 平成 18 年度、19 年度とも主に 2 年生希望者が、3 学科合同でカナダバンクーバーにて研修を行った。本学科の学生はホームステイを行い病院の栄養部門の見学及びカナダの管理栄養士の仕事の状況と日本の管理栄養士の立場の違いを見学してきた。
- 主な研修内容は、「臨床栄養について（NST への取り組み状況や栄養食事指導等）」、「フードサービスについて（疾病・病態別の食事の種類等）」及びビクトリア総合病院セントポール病院、バーナビ病院などの訪問見学である。
- 海外研修において、訪問先の医療制度について学習できることは有意義であるが、英語力の不足に不便を感じることもあったようであり、日本の管理栄養士の状況を理解した上で参加した方が、より一層有意義に海外研修に参画できたという感想が多かった。
- 今後は、海外（主に英語圏）での管理栄養士の業務状況を、より長期間（2～3 ヶ月）観察・体験できるような機会を設けることが必要である。

③ 医療情報学科

医療情報学科では、平成 19 年度より米国ワシントン州の州立大学、諸医療施設において、医療情報専門短期研修を実施している。医療情報システムの活用が進むアメリカにおける先進的取り組みを通じて、今日の医療において医療情報が担っている役割、果たすべき役割、またその重要性について学習することを目標としている。この研修を通じて学生の学習意欲が向上するとともに、新たな研究テーマの発見などにもつながっている。

表 25 海外研修の実施状況

実施年/対象	訪問地	訪問先（医療施設、大学等）	研修内容
平成 18 年 全学	カナダ：バンクーバー；ビクトリア (6泊8日)	病院：ロイヤル・ジュビリー；セント・ポール；バンクーバー・ジェネラル病院、他 大学：ビクトリア州立大学；カモソンカレッジ その他：フレージャー保健局	カナダの医療制度； カナダの医療における医療 IT 技師；看護師；栄養士の役割 保健局の役割
平成 19 年 全学	カナダ：バンクーバー；ビクトリア (6泊8日)	病院：ロイヤル・ジュビリー；セント・ポール；ブリティッシュ・コロンビア大学病院、他 大学：ビクトリア州立大学 その他：フレージャー保健局	カナダの医療制度； カナダの医療における医療 IT 技師；看護師；栄養士の役割 保健局の役割
平成 19 年 看護学科	アメリカ：ワシントン州；シアトル (11泊13日)	シアトル・パシフィック大学保健科学学部(8 講義及び訪問医療施設は 7 箇所)	大学での各種講義、及び関連医療施設での講義・見学を通じて、アメリカの医療制度、看護制度、看護師の役割拡大のあり方などを学ぶ
平成 20 年 医療情報学科	アメリカ：ワシントン州；シアトル、タコマ (12泊14日)	大学：タコマコミュニティカレッジ；ノースウエスタン大学 病院：セントジョセフ医療センター；国立VA医療センター；エバングリーン医療センター他	アメリカの医療制度全般 アメリカにおける医療 IT の活用状況と医療 IT 技師が果たす役割・重要性について学ぶ座学だけでなく、実践を通じて学べることが特徴

「今後の改善・改革に向けた方策」

- ① 全学対象の海外研修については、事前学習、事後学習をより一層充実させることを検討している。また、研修先としては、カナダ以外も考慮に入れて、学生の便益性を中心において慎重に検討する必要がある。また、学科単位での短期海外研修では、受け入れ機関と提携なども結び、研修内容の一層の充実を図る。今後は選択科目の一部として専門的海外研修を位置づけることなども検討し、学生のモチベーションを高める方策を考えていく必要がある。
- ② 今後、参加する学生の学習意欲向上や国際的に活躍できる人材を養成するという視点から、「国際交流に関する基本方針」に基づき、本学の優れた取り組みについて文部科学省及び財団法人等において公募する事業に積極的に応募し、採択を目指すとともに、中長期留学制度も検討していく必要がある。また、これまで構築してきた海外の教育機関や医療機関との関係を持続させ、教員及び職員レベルでの連携も深め、国際的研究協力や共同研究の実現を目指すこととする。

## <大学院修士課程の教育内容・方法等>

### 「現状及び点検・評価」

#### (1) 大学院修士課程における教育課程の編成の考え方及び特色

大学院医療保健学研究科の教育理念及び教育目的に基づき、次の教育課程を体系的に編成している。

##### ① 必修科目（5科目、10単位）

本研究科設置の趣旨に鑑み、本学の特色を活かした医療保健学分野の学際性を基に必修科目を編成している。

##### ② 選択科目（6科目、12単位以上）

大学院生の専門分野に応じて自由に履修できるよう、研究科の選択科目を配置している。

##### ③ 研究演習（2科目、8単位）

「研究演習Ⅰ」及び「研究演習Ⅱ」の2科目をもって構成し、各院生の興味、関心に基づいて設定した研究テーマについて専任教員が研究指導を行う。

（表 26 大学院医療保健学研究科教育課程一覧）

#### (2) 履修指導の方法

##### ① 標準修業年限

修士課程の標準修業年限は2年とする。ただし、在学年限は3年とする。また、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者に関しては、特例として1年以上在学すれば足りるものとする。

##### ② 修了要件

2年以上在学し、必修科目10単位、選択科目12単位以上、かつ研究演習科目8単位を修得し、本大学院が行う修士論文あるいは特定課題研究の最終試験に合格することをもって修了とする。

##### ③ 進級要件、履修科目の登録の上限

2年間で修了要件を満たすこと。履修科目の登録の上限はなし。

##### ④ 成績評価法及び基準（単位の認定及び成績の評価）

○授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。ただし、試験は論文、実技、平素の成績等によってこれに代えることがある。

○試験の成績及び修士の学位論文審査または特定の課題についての研究の成果の審査成績はA（100点～80点）、B（79点～70点）、C（69点～60点）、D（60点未満）の評語で表し、C以上を合格とし、Dは不合格とする。

#### (3) 研究指導方法

- ① 「研究演習Ⅰ」、「研究演習Ⅱ」の2科目をもって構成し、研究指導教員が、学生の興味、関心に従い個別の研究テーマに基づいて研究指導を行う。研究の内容によっ

ては、複数の教員が研究指導を行うなど、学際性と専門性の双方に配慮して対応する。

- ② 「研究演習Ⅰ」では、各自の研究テーマの選択とそれに応じた研究手法の基礎や論文作成方法などを演習形式による授業を通して学修する。
- ③ 「研究演習Ⅱ」では、「研究演習Ⅰ」において修得した研究の基礎を基に各自の研究テーマを発展させ、修士論文あるいは特定課題研究報告書を作成するための研究指導を行う。

(4) 修士論文の審査

修士論文の審査については、主査1名及び副主査1名が審査に当たる。修士論文の題目によっては外部委員（主査あるいは副主査1名）を研究科長が任命し審査に当たることとしている。

(5) 学位授与の認定

修士の学位の授与については、研究科長会議においてその可否の審議を行った後、大学経営会議における審議・承認を経て認定する。

「今後の改善・改革に向けた方策」

本大学院は、平成21年3月に初めての修了生を送り出すことから、修了生に対して本学大学院の教育理念・教育目的に則り、適切に教育が行われたか、おってアンケート調査を実施し、その結果を踏まえて教育内容・方法の改善に資することが望まれる。

表 26 大学院医療保健学研究科教育課程一覧

授 業 科 目 名		単位数	
必 修 科 目	医療保健管理学	2	
	総合人間栄養学特論	2	
	安全管理情報学	2	
	サーベイランス特論	2	
	医療経営特論	2	
選 択 科 目	看 護 マ ネ ジ メ ン ト 領 域	組織の経済学	2
		疫学・保健統計論	2
		スピリチュアルケア史	2
		看護マネジメント特論Ⅰ【ケアリング概論】	2
		看護マネジメント特論Ⅱ【看護情報のマネジメント】	2
		看護マネジメント特論Ⅲ【人材活用】	2
		看護マネジメント特論Ⅳ【質保証・リスクマネジメント・クリティカルパス論】	2
		ケアマネジメント特論	2
	精神保健学	2	
	感 染 制 御 領 域	感染制御学特論Ⅰ【ファシリティ・マネジメント学・病院空調学】	2
		感染制御学特論Ⅱ【洗浄・消毒・滅菌学論・手指衛生学】	2
		感染制御学特論Ⅲ【感染制御学・周手術期医学】	2
		感染制御看護学特論	2
		職業感染制御学	2
		殺菌消毒薬学	2
	医 療 栄 養 領 域	臨床栄養学特論	2
		臨床栄養学演習	1
		ライフステージ栄養学特論	2
		ライフステージ栄養学特論演習	1
		医療薬学特論	2
		臨床消化器特論	2
		医療食品衛生学	2
		公衆栄養学特論	2
		公衆栄養学特論演習	1
		生体防御機能論	2
		ニュートリションサポートチーム特論	2
	医 療 保 健 情 報 そ の 他 領 域	医療情報コミュニケーター論	2
医療情報テクノロジー特論		2	
医療知識処理論		2	
死生学概論		2	
研 究 演 習	研究演習Ⅰ	4	
	研究演習Ⅱ	4	